

目 次

グラビア さいかち坂校舎

ふるさと自慢

会員往来

巻 頭 言	1
地域理事の声	2～3
お知らせ	4
重点事業へのアプローチ	5～7
会 務	8～14
東日本大震災対策部会	15～18
学 術	19～21
保 険	22～25
母校だより	26～29
父兄会だより	30～31
支部のうごき	31～36
クラス会だより	37～39
理事会のうごき	40～41
庶務日誌	41～42
逝去会員	43
へんしゅうこうき	44

# さいかち坂校舎



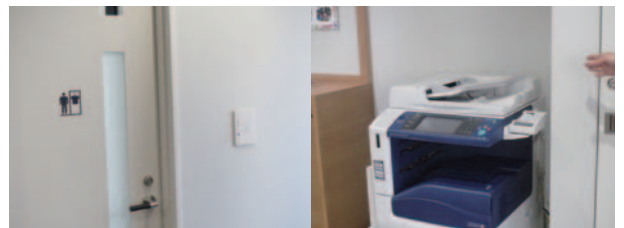
平成14年3月17日（土）に竣工式が行われた、さいかち坂校舎。4月には新入生を迎え新たな歴史が刻まれた。学生生活にもちょっと慣れてきた6月に取材にお邪魔した。



校舎は8階建。2階に一学年全員が入れる講義室、4階には中教室が二つ、地下1階と3階にミーティング、食事が可能なラウンジがある。5、6階は実習室、7階にはミーティングルームを備えた図書室、8階は教員室と学生相談コーナーがある。



教員、学生ともICが組まれたIDカードを所持している。このカードは授業の出席、ロッカー室・図書館への出入り、図書の貸出、コピー機・プリンターの利用に必須となっている。



左：個人ロッカー、右：複合機（共に3F）

学内には無線LANが敷設され、情報の収集、レポートの作成がどこでも可能である。出来上がったレポートの印刷はLANを経由し学内のプリンターで印刷が出来る。



3階のラウンジには掲示板があり我々の時代と同じでクラブの勧誘ポスターが貼られていた。昔とは異なりクラス全員の笑顔の写真が掲示されていた。



2F 第3講義室での授業風景

授業ものぞかせていただいた。席は指定席。欠席も無くびっしりと埋まっていた。昼食はラウンジだけでなく教室でも可能である。2ヵ月でまだ慣れていないのか外で食事をする学生は少なく、学内で皆集まり楽しそうに話しながらの食事をとっていた。



インタビューに答えていただいた新入生

インタビューした2人は自宅からの通学とのことであったが、一人暮らしの学生は、亀戸、錦糸町など総武線沿線に部屋を持っているとのことである。80%以上の学生が部活に所属し、授業後に週2〜3回稲毛の校舎まで行っている。



ラウンジ



さいかち坂校舎外の移動パン屋 タコスライス



図書館のエントランス

来年4月にはさいかち坂校舎も2学年が入りにぎやかになる。来年の7月には新館（仮称）も完成し、後期はほとんどの学生が水道橋での生活が始まる。

(取材・広報部 白田 準, 島田 篤)

# ふるさと自慢 ～私のお気に入り～

## 市川市自慢 私のお気に入り

千葉県



八幡の藪知らず

市川市は、東京歯科大同窓に縁の深い土地です。教養課程があった時はもちろん、市川総合病院にお世話になった先生も多いと思います。市川市の人口は約46万人、最近では本八幡駅、市川駅周辺、外環道路の建設などで再開発が進んでいます。古くて新しい市川市をご紹介します。

### 古都市川

市川市周辺は歴史が古く、縄文時代にさかのぼります。古墳が多数発掘されていて、多くの人々が昔からこの地に暮らしていました。そのた



涙石

め日本有数の貝塚群があります。

言い伝えなども多く残っています。手児奈の話は有名です。昔、手児奈という美しい娘がいて、多くの者たちが娘を巡って争い、そのことを苦しめた手児奈が入水自殺をして命を絶った。というお話です。その霊を慰めるために、求法寺が作られました（後の弘法寺）。また、弘法寺の石段27段目は涙石とわれ乾くことのない階段です。その昔、東照宮に献上する石をこの石段に使用したということで責任を取り石段で切腹をし、その悔し涙で濡れていると言われ、その言い伝えが残っています。本当にそこだけ濡れていてとても不思議です。

この階段を上りきったところには、伏姫桜という立派な枝垂桜があり樹齢400年と言われています。

20年ほど前に私が見たときはその素晴らしさに感動したのを覚えています。最近では枝が折れてだいぶ小さくなったと聞いていますが、保存会



法華経寺

の方の努力でよみがえっているようです。機会があれば、また見てみたいと思います。八幡の「藪知らず」も有名です。一度入ると出られないと伝えられています。水戸黄門が入った伝説も残っています。そんなに大きな藪ではないのですが今でも入ってはいけない禁足地となっています。実は直ぐ裏が旧市川市歯科医師会館です、真裏から見られるのは歯科医師会館からだけです。

他にも「夜泣き石」というものもあります。興味がわいた方は是非調べてみてください。市川市のお寺といえば中山法華経寺です。日蓮聖人が開いたお寺です。

タイムスリップしたような、落ち着いた空間です。

重要文化財がたくさんあり、一度散策されることをお勧めします。さざれ石、聖教殿、徳川と書かれた墓石など、新しい発見があると思います。

### 市川市再開発

市川市は古い町というだけでなく、再開発も進んでいます。

本八幡駅、市川駅周辺は高層マンションが立てられ、外環道路の建設で多くの家が立ち退き、市川市は今大きく変わっています。



市川橋から見た市川駅の高層マンション

市川駅の高層マンション展望階は誰でも上がることができます。ここから市川市を一望することができます。

真ん中に見えるのが市川総合病院です。少し手前に見えるブルーシートが外環道路の工事現場で旧市川病院の立っていた場所です。

この南口の開発は前市長千葉光行先生(45年卒)の功績と聞いております。



高層マンションから見た市川総合病院

市川市歯科医師会も前会長竜崎崇仁先生(49年卒)、現副会長野田彰久先生(55年卒)の決断と手腕で新しく建て替えることができました。

### 市川市のお店

本八幡駅には「サイゼリア」1号店があります。昔はよく行ったのですが、今は記念店として残してあり



市川市歯科医師会新会館



サイゼリア1号店



新台北のマスター

ますが営業はしていません。

個人的によくいくお店に市川駅南

口に小さくて家庭的なお店「新台北」があります。安くて美味しいです。「東歯同窓会報を見た」と言って頂いた方は、ワンドリンクサービスしてくれるそうです。探して行ってみてください。(9月末まで有効です)

### 市川市の検診

市川市には、歯周病疾患検診、二十歳の歯科健康診査、いきいき歯力健診、口腔ガン健診と多くの検診があります。二十歳の歯科健康診査は20歳を迎える市川市若者に対して、パントモ撮影、前歯のクリーニング、虫歯、歯周病、咬合、智歯のチェックがついています。口腔ガン健診は個別健診で費用は500円、年1回液状細胞診という検査を受けることができます。いきいき歯力健診は肥満を加速させている1因としての歯科分野に着目し、平成20年から、特定保健指導を受ける方に無料受診券を郵送し、指定歯科医院にて検診指導するシステムです。このような素晴らしい検診システムも東京歯科大学の先輩のお力が大きかったと思います。市川同窓会の先輩方にはとても良くして頂いています。同窓会に入ったことでいい社会勉強ができました。是非一度千葉県支部市川同窓会に遊びに来てください。同窓会最高!



同窓会市川支部委員と天ぷら

(平成4年卒 西村哲雄)

## 会 員 往 来

明治28年6月に高山歯科医学院の第一回の卒業式がありましたが、それ以降の卒業生の数を母校のホームページで調べてみますと、平成24年3月の卒業生までで14,779人とのことです。明治、大正、昭和、平成をとおして我々の先輩方は歯科の分野はもちろん、社会のいろいろな分野で活躍し今日の日本の繁栄をもたらしてくれました。

さて、この“会員往来”は同窓会報での新企画で、同窓会員で歯科以外の分野で活躍されている方を紹介するコーナーです。有名人となると芸能界とか政治の世界とか想像しがちですが、決して派手ではなく地道に社会の中で頑張っている先生方も紹介してゆきたいと企画しました。

第一回目の今回は昭和39年卒の片倉恵男（かたくらしげお）先生をご紹介します。長野県大町市に塩の道博物館、流鏝馬会館があります。かつて糸魚川（新潟県）と松本（長野県）を結んだ千国（ちくに）街道を行き交った物資がどのように運ばれたか、塩を運ぶ様子を今に伝える博物館です。塩問屋を営んでいた商家の建物をそのまま利用しているため、当時の面影をそのままに実感することができます。片倉先生はこの博物館の館長を務めています。

片倉先生のプロフィールを紹介しましょう。片倉恵男先生、昭和39年3月東京歯科大学卒業。学生時代はテニス部所属ですが、学部3年時に学生会委員長を務め、犠牲者のでた安保反対運動の「白衣デモ」の先頭に立って指揮を執っている姿がテレビに映り、翌日福島学長・長尾学生部長より厳重注意を受けたとの強者だったそうです。卒業後は母校口腔外科に入局を希望しましたが、教授に危険思想の持ち主であるといわれ入局難航のところ、国家試験終了直後にスキーに行った八幡平で、氏家医局長ら4名の口腔外科の先生達と偶然に出会い、その夜の酒宴で飲みっぷりが認められ、入局の確約をとったとのエピソードもあります。また、口腔外科在籍中当時の福島学長から4名の女性との見合い写真を見せられ、全てをお断りすることになったとのことですが、奥様と

はその福島先生夫妻のご媒酌により昭和42年にご結婚されたとのことです。

昭和44年に信州のお父上のもとに帰り、片倉歯科医院を継承、平成16年10月31日診療室閉鎖・歯科診療引退し、平成17年8月1日 塩の道博物館・流鏝馬会館館長に就任しました。何と言いましても金子理事長とは親しき仲であり、また本部同窓会の副会長を平成20年から平成23年まで務められ、大山前会長の片腕として同窓会改革の大黒柱として活躍されました。

さて片倉先生のエピソードをもう一つ紹介しましょう。昭和54年7月6日金曜日の大糸タイムスによれば、当時42歳の片倉先生は長野県歯科医師会友好訪中団に加わり北京動物園を訪問した際、大町市にパンダを譲ってほしいという運動が起きている折から、現地の人たちに「是非実現してほしい」と自主的に運動をし、市民の念願を伝えたそうです。当時のコメントとして「パンダをいただくのは非常にむずかしいとの印象をうけた。しかし急には無理といっても少しずつ努力が積み重なればいつか市民の願いが通じる時も…」と記されており、片倉先生の人となりに分かります。

それでは、片倉恵男先生に塩の道博物館そして併設されている流鏝馬会館をご紹介します。



昭和36年3月専門課程2年  
水道橋屋上にて



平成22年11月 評議員会にて

## 塩の道博物館 やぶさめ併設 流鏑馬会館

館長 片倉 恵 男 (昭和39年卒)



塩の道博物館の前景 (長野県大町市八日町2572)

そもそも私が館長に就任した理由は、平成17年3月に当館開設以来の館長が定年を迎え、後任を探すことになりましたが、十分な給与が出せないうえ、現役の職業人との兼務は無理という状況のなかでは簡単には見つからず、結局平成16年10月からリタイアしていた私が、役員の中で唯一人条件が叶う人間であったため、白羽の矢を立てられてしまったわけです。

私は館長を引き受けるにあたり、無給であることと非常勤であることを条件と致しました。勿論全く専門知識のない者が給与を貰うのは、おこがましいわけですが、それ以上に「館事情」を知っていれば、とても貰うわけにはいきませんでした。

本業の時と違い、日本各地のお客さんとの出会いは大変楽しく、手指の痺れで神経を使い、いらいらしながら診療していた時に比べると、気楽な時間を過ごす安息の場所となりました。

博物館は館長とおばさん2人が交代で勤務しており、館長の主な仕事

は、毎日届く FAX や手紙・書類の整理、館内の電球・蛍光灯の取替え、蜘蛛や蜂の巣の除去など、おばさん達が出来なかつたり嫌がることは、何でもやることにしています。

当館では囲炉裏で薪を燃やしますが、その薪を切ったり割ることも館長の仕事のひとつで、最近電動ノコギリや斧の使い方が、めっきり上達してきました。

「塩の道博物館」は、塩の道千国街道の中間点に当たる大町で、庄屋であり塩問屋でもあった「平林家」の母屋と蔵を、昭和57(1982)年に「歴史的建造物を保存する会」と言う市内の有志によって、法人(43名の株主)組織で開設したものです。

母屋は明治22(1889)年の火災で焼失し、翌年に再建したのですが、三つの蔵(文庫蔵・味噌蔵・塩蔵)は焼失を免れたため、江戸時代の姿で残っております。それだけに傷みが増えてきており、おばさん達の掃除の後の「傷み箇所報告」にびくびくしています。

併設の「流鏑馬会館」は、鎌倉の



流鏑馬的に向って矢を射る「射隊ポポ」

鶴ヶ岡八幡宮・京都の賀茂神社と共に我が国三大流鏑馬の1つと言われている「流鏑馬祭り」の馬具や衣装等の一式を展示しております。

大町流鏑馬の特徴は、射手が6歳から9歳位の童子であることで、市内10町から10騎が出場し、矢を射ながら市内を巡行します。毎年7月第4日曜日に開催されます。

最近では全国の博物館・美術館の入館者が減少傾向にあり、当館もその例外ではなく、集客と財政には頭を痛めており、職員の給与や建物の修繕費にも苦勞しております。

当地は黒部ダムの入口で、北アルプスの登山基地でもあり、自然環境に恵まれた景勝・観光地でもありますので、是非ご家族・友人お揃いでお出かけください。



塩の道博物館の「ふんごみ式」  
囲炉裏での筆者

## 同窓のご支援を お願いします



副会長

佐 瀬 俊 之

東京歯科大学同窓会副会長に任命されました，昭和46年卒業の佐瀬俊之でございます。本部同窓会という大きな組織の経験がなく，地区の同窓会組織と比べるとスケールが大きく，内容も違う運営に戸惑いを感じますが，矢崎会長の目指す目標に少しでもお役にたてるよう頑張ります。

始めに少し時間が立ちましたが昨年3月11日の東日本大震災において多くの方が被害を受け大変な思いをなされました。同窓会では6月に宮城県に視察を兼ねて行ってまいりました。実際に見ると，瓦礫の処理が進まず，又海辺は津波に流された後，まだなにもないという状態であり，復旧はまだまだという感じでした。この出来事は日本人の考え方を考えるほどの大きな出来事で決して忘れてはならない事だと思います。一日も早く震災に遭われた皆様が元の生活に戻りますようお祈りいたします。

矢崎会長は，会員にとって明瞭で身近な同窓会をめざす，と言われており，「より強い会員との連携と母校へ

の支援」を目指す最大のテーマとしております。

さて，私に与えられた担当は大学連携，大学移転でございます。ご存知のように現在大学は移転に向け大きな進展を見せております。すでに4月から「さいかち坂校舎」にて新入生の授業がはじまり，水道橋病院では一部診療が始まり，活気に満ちた状態です。水道橋移転に目が奪われがちではありますが，わたしが住んでおります千葉病院は以前と変わらず地域の要として地元歯科医療や住民にたいし大きな役割を担っております。この千葉病院を長く残していただければと思っております。大学連携担当としては水道橋移転と千葉病院両方を考えていきたいと思っております。さて，もうご存じでしょうが第105回歯科医師国家試験の合格率が国公立を含めた全歯科大学の中で第1位の成績であった事（新卒98.4%，既卒91.4%）は同窓として大いに誇り高いことでありました。その中でも既卒者の合格が24名中22名と驚くべき成果を上げたことは東京歯科大学の努力は大変なことであると感じます。卒業した同窓を国試合格まで面倒を見てくれる大学はあまり聞いたことがありません，国家試験担当の先生方，事務の方に感謝の念を禁じえません。現在，私立歯科大学は，受験生の減少などにより極端なダウンピングが始まっており，大学の生き残りをかけ熾烈な競争が始まっております。同窓として誇り高き伝統ある東京歯科大学が今後とも歯科界の雄としていてほしいと願うものであります。これには同窓の支援が欠かせません。経済の低迷，政治の混乱，昨年3月に起きた東日本大震災と取りまく環境は決して良くはありません，一人一人ではやれることは小さいですが，まとまれば大きな力です。同窓がまとまり母校にご支援くださるようお願いいたします。今建設中の新校舎に同窓の象徴となる血脇記念ホールが作られております。ホール建設の募金が予定額の3分の1程度であります。大学も国家試験，研究と頑張っております。同窓が誇りを持って言える大学として発展，充実をしております。その後押しを是非とも我々同窓がしたいと思えます。よろしくご協力のほどお願いいたします。



# 地域理事の声



## 若き先生へ

### — 同窓会とは —

地域選出理事（北海道） 佐藤 英俊

平成23年3月11日14時46分、東北地方を中心とするM9の東日本大震災が発生しました。それに伴う津波は大地を、港湾を、一瞬にして破壊しました。その後の避難所生活も過酷で、すべてを失って呆然としている被災者の方々を見る度に胸が痛みます。それに加えて、人的災害とも言える福島第1原子力発電所事故による放射能汚染は、未だかつてない大災害です。被災された方々が1日でも早く、元気で普通の生活に戻れるよう、願わずにはられません。

北海道地域支部連合会では、各支部の皆様より、被災同窓生に対する支援金が、ほぼ全会員よりたくさん寄せられました。同窓の絆の強さをこんなに強く感じた事はありません。

北海道地域支部連合会は、10支部に分かれていて、総会員数は、229名で、年々減少しています。今の時代に北海道から東京歯科大学に入学させるのは大変なことで、地元の大学に進めている同窓生が多数おります。又、北海道に帰って来る卒業生も少なく、高齢化が進んでいる現状です。しかし我々同窓生は、数が少なくなっても、各地域の会員の声を反映し、地域の実情を理解しながら、前進できるような同窓会になりたいと思っています。私は、同窓会

とは、同じ釜の飯を食べた仲間だと思ひ、皆仲良く議論をし、楽しく集まれば最高のよろこびだと考えます。

さて、話は変わりますが、議論をするためには、それなりのルールを知らなければなりません。同窓会こそが、社会勉強の最初の一步ではないかと思ひます。ある先輩が言っていました。「同窓会の中では、いくら失敗しようと、迷惑をかけようと、ゆるされます。しかし、これが、歯科医師会等の他の組織の中では、ゆるされません。同窓会こそが最大の勉強の場なのです」と。卒業してから開業すると、若くして一国一城の主になりますが、社会生活、地域との関係、人間関係等、多くの事は誰も教えてくれません。やはり、同窓会の先輩が親身になって相談のしてくれることが、大変ありがたいことなのです。たった一度しかない人生の中で、素晴らしい人と出会いたくないですか？

同窓会のもう一つの顔に学術があります。これは、本部も各連合会も、思ひを寄せている所です。ここで北海道地域支部連合会の元会長である松川健二先生が思ひをよせた、卒業研修会についてお話しします。松川会長は、本部同窓会が昭和51年より卒研セミナーを開催し、大きな成果をあげているが、地域的環境か

ら、北海道からは仲々出席しにくい。ならば連合会全員の希望する、又、時流への対応を加味した研修会を、継続的に開催する計画を立てました。松川会長は、近い将来に到来する乱世の歯科界で生きのこるために、研修の必要性を、「気心の知れた大きなスタディ・クラブ」と、その思ひを常に話されていました。更に会長は、「会の運営には何よりも『和』が大事である。それは単なる平和の和ではなく、お互いの意見を、自分の考えを、率直に、十二分に述べあい、その結果生ずる『輪』であってほしい。手と手を軽く結び合う『輪』。『和』と『輪』を基調としたいと念ずる」とも言われ、昭和59年に第1回の卒業研修会が開催され、昨年第28回が開催されたところです。すばらしい先輩達とお会いできて嬉しく思っています。

私は昭和49年に卒業後、すぐに北海道に帰り、同窓会の札幌支部に入会しました。そこで勉強させてもらい、札幌歯科医師会、北海道歯科医師会、日歯連盟、日歯代議員として、出向させてもらいました。現在は、お世話になった私の原点である同窓会に、何かお返ししたいと考えていましたが、この原稿を書くことで何かのお役にたてれば、幸いです。



## 思い出すことなど

地域選出理事（東北） 高橋 文明

大学を卒業し、地方の小さな町で、歯科の開業医として生きて行く…。照る日も、曇る日も。そんな自分を、これまで支えてくれたものは何だったのだろうか。それは、東京歯科で学んだという矜持のようなもの。そして恩師の人々、その教えの数々…。

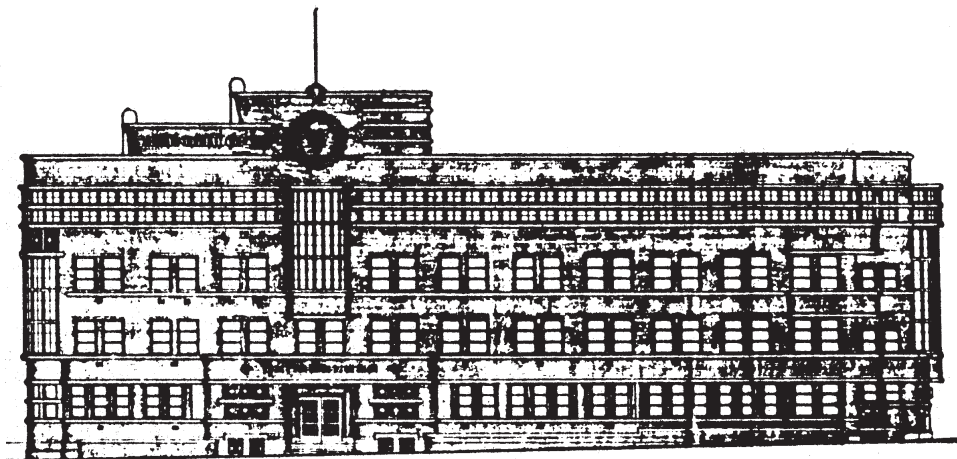
30年以上も前のことです。母校に千葉市稲毛への移転計画があったとき、今と同じように、同窓への募金のお話がありました。県支部に入会して間もない当時の私は、卒業してしまった大学のことなど、まったくの無関心、自分のことで精一杯でした。母校への寄付のことなんて、はなから眼中にありません。そんなある日、法事か何かで、親戚中が集まる機会がありました。少しの自信と己惚れからだったのでしょうか。高揚した気分で、私は診療の自慢話と気がつけば大学の批判まで、みんなの前で展開していました。私はこれまで、家族から一度も叱られた記憶がありませんでしたが、この時ばかりは伯母から、こっ酷くやられまし

た。「誰のおかげで、いまの自分があると思っているの。大学のお世話になったから、こんなことをしているんでしょ。自分のことになると、いくらでもお金を使うくせに、こんどは大学の悪口かい。そういうのをヨグタガレ（欲張り）って言うんだよ」。もしかしたら、自分は根底が間違っているのかもしれない。その日は、なかなか寝付けませんでした。

このことがあってから、私は同窓会の集まりに、努めて参加するようになりました。当時の秋田県支部長は、堀部清元先生（昭和20年9月卒）。先生は、絵に描いたような紳士で、学究肌。私たち若輩を、呼び捨てにすることなど一度もありません。先生の持論は、卒業したら老いも若きも同窓の一員、というものでした。「高橋先生。私たちの仕事は、真面目にやればやるほど、点数が下がるんだよね。困ったねえ先生。」耳元で、先生の声が今でもよみがえります。佐藤俊男先生（昭和23年卒）も忘れられない大先輩の一

人です。小柄で温厚、秋田弁を巧みにあやつり、診療の細かなことまで実地指導してくださいました。五味武一先生（昭和22年卒）には、支部長時代に子供たちの進学相談にのって頂きました。自分のことをかまわずに、親身になって、とことん後輩の面倒をみる先生の愛らしい笑顔が忘れられません。

気が付けば、私は実に多くのことを、東京歯科の諸先輩に学んでいました。お世話になりっぱなしでした。若過ぎてなのか、愚かなのか、このことに気づくのが、少し遅すぎました。それにしても時の流れは速いですね。青年の気質も、日本人の気質自体も、いまは大きく変化してしまいました。高山紀齋先生が創立し、120年を超える歳月。変わってもいいものと変わってはいけないもの。緒方洪庵の適塾。福沢諭吉の慶応義塾。そして高山紀齋の高山塾。母校の起源を、こんなふうと呼んで見たくくなりました。うっとりしい気分が晴れて、愉快です。



# お知らせ

## 理事会より

- 去る第3回理事会（平成24年6月9日開催）にて、同窓会会則第61条により、石井悦子氏を平成24年2月1日に遡及して事務長に任命しました。
- 平成24年度同窓会評議員会・定時総会が11月3日に開催されます。今回も改革の具体化を目指し、重要な提案が予定されています。
- 平成24年7月1日に同窓会学年代表者会が、水道橋さいかち坂校舎で開催されました。特に若手の代表者から、有意義な意見が多数寄せられました。これらを踏まえて、より具体的な若手支援策を立案していきます。

## 同窓会事業・行事

- 第40回全国ゴルフ大会  
と き 平成24年9月27日（木）  
ところ 大利根カントリークラブ（茨城県）
- 平成24年度東京歯科大学同窓会評議員会・定時総会  
と き 平成24年11月3日（土）  
ところ 如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）
- TDC 卒後研修セミナー2012  
卒研セミナー  
No.5 イブニングセミナー3 『開業医が取り組む摂食嚥下リハビリテーション（入門編）』  
～診療室からはじめる口腔機能向上へのアプローチ～  
10月27日（土）  
No.6 臨床実習セミナー2 『たったこれだけ！MTM！』  
～タイポドントでマスターする基本の『き』～  
10月28日（日）
- TDC インプラントセミナー・マスターコース  
開催日程 ・9月8日（土）・9日（日）  
・10月6日（土）・7日（日）

問い合わせ先：東京歯科大学同窓会  
Tel. 03-5275-1761

## 母校関係行事・案内

- 平成24年度東京歯科大学学会  
第294回総会 平成24年10月20日・21日（土・日）  
演題締切 8月28日（火）

## 重点事業へのアプローチ

### —大学連携のすすめ—

矢崎執行部の重点課題の一つに“大学とのさらなる連携強化”があります。大学では新入生の学外セミナー、水道橋病院での口腔外科診療室の完成、高度歯科医療センターの開設、学生海外研修制度（エレクトティブスタディ）が実施され、矢崎会長はそれぞれ出席され大学との連携を積極的に進めています。

#### 水道橋病院に新たな口腔外科診療室が完成しました。

24年7月6日にかねてより改築工事が行われていました水道橋病院の4階に口腔外科診療室が完成致しました。種々の最新の機能を備えたユニットや各種機器が合理的に配置され、同窓に取りましても口腔外科の患者さんを紹介するに当たって、誠に心強い拠点となると思われます。完成を祝い、金子理事長、井出学長、矢崎秀昭同窓会会長、また器材の導入に当たりご協力賜った吉田製作所の社長による完成披露のテープカットが行われ、関係の方々への内覧が行われました。(写真)



#### 高度歯科医療センター(口腔インプラント科)が 水道橋病院に開設されました。

24年7月6日に以前よりありました水道橋病院の口腔インプラント科をさらに充実して水道橋病院の3階に高度歯科医療センターが開設されました。最新のインプラント治療をするためのCT装置はじめ各種機材さらに手術室も完備しており、都心におけるインプラント治療の拠点となるものと思われます。

完成披露に先立ち、金子理事長、井出学長、矢崎同窓会会長、さらに器材等の導入にご協力戴いたモリタ製作所の社長による完成披露のテープカットが行われました。(写真)



## 大学の新生の学外セミナーが開催されました。

毎年新生にたいしてこれからの大学生活をより円滑に送れるようにと、毎年、大学により開催されている、新生の学外セミナーが本年も木更津にある研修施設の上総アカデミアパークにて6月20日、21日、22日に行われました。

いくつかのグループに分かれてのディスカッション、社会人としての教養講座、さらに実際に食事をしながらの超一流ホテルマンによるディナー時のマナー講座など大変充実し

た内容となっています。

このセミナーの中で、大学からの依頼で、矢崎同窓会長から新生にたいして、臨床の現場からのメッ

セージとして、社会における歯科医療の重要性と臨床の実際についての講義と、同窓会や歯科医師会の社会的意義などについて話されました。



マナーに沿った楽しいディナー



矢崎同窓会会長による新生への講義



## 大学の学生海外研修制度(エレクトティブスタディ)への 同窓会からの支援

夏休み中に、各学年から選抜された学生が、海外の歯科大学施設などにおいて研修する大学の制度(エレクトティブスタディ)があります。同窓会としても学生がより広い視野を持つことは大変素晴らしい事で、この大学の事業を支援しております。

24年7月9日に千葉校舎の各学年の教室にて学生全員の前で、井出学長、矢崎同窓会会長から選抜された学生の表彰と、学長の訓示及び同窓会会長からの激励の挨拶が行われました。

学生の時代から同窓会の存在と、その意義を学生に理解してもらう上で意義のあることと思われまます。

24年度は第1学年から第3学年までは各学年2名ずつで(合計6名)が台北医科大学とその関連施設に8

月18日~24日まで、第4学年から6学年まで7名(6年生は3名)がカナダのアルバー大学、カルガリー大学に8月17日~24日まで出かけることとなっています。

なお1年生の表彰は6月21日に木更津の上総アカデミアパークで行われている新入生学外セミナー会場にて井出学長、矢崎同窓会会長より行われました。



## 平成24年度東京歯科大学同窓会学年代表者会 開催



平成24年7月1日午後1時より本年4月から新1年生が勉学に勤しむ水道橋さいかち坂校舎4階第一教室において、平成24年度東京歯科大学同窓会学年代表者会が開催された。

本会は、本部同窓会がクラス会の代表との対話の場として昨年より設けられ、同窓会と東京歯科大学との共同で開催された。昭和17年卒業（一志会）の長谷川正康先生を筆頭に、今春卒業した石川宗理先生（創絆会）まで、55学年55名の代表者と大学、同窓会関係者27名の総勢82名が出席し、財部正治総務担当常任理事の進行で進められた。

開会に先立ち、12時30分より、移転計画の第一弾として3月末に完成したさいかち坂校舎の見学会が行わ



れた。新校舎は、地上8階地下1階のコンパクトながら機能的に設計されたビルで、4月より1年生が新しいキャンパスライフを満喫しているとのことである。

佐瀬俊之副会長（大学連携、大学移転担当）の開会の辞に続き、金子譲法人理事長からは、「大学と同窓会が共に進んでいきたい」また、矢崎秀昭同窓会長からは、「大学と同窓会が共同で開催できたことを嬉しく思う。大学側では、今春の国家試験合格率No.1、移転などがスムーズに進んでおり、日本における歯科界の現状は大変厳しいが、同窓会としては血脇ホールの建設という面で大学に支援をしてきたい。更に、この伝統に育まれた母校が今後とも歯科大学の雄として輝き続ける様皆さまと共に進んでいきたい」と挨拶があった。

出席者の紹介のあと、大学側から「大学の現状」と題して、現在の大学運営について現場からのお話と大学の中長期的な計画について法人理事長からのお話を伺った。

### (1) 大学移転、学務に関して （井出吉信学長）



「2012年メインキャンパスを伝統の地水道橋に」と謳った移転も順調に進み、4月から、さいかち坂校舎に新入生を迎えた。新校舎竣工では同窓会からいただいたお祝いで学生に電子レンジを購入し設置しました。学生は大変喜んでおります。このような事からも同窓会の大切さを学生に知らせております。都会の大学ということで体育の授業は錦糸町のスポーツクラブを貸し切りで行い、思った以上に好評である。また、授業の後稲毛へ移動してクラブ活動も盛んに行われている。移転と建設に関しては、TDCビル新館、血脇ホールの完成予想図を示し、現

在の TDC ビルと同様に高級感のある素晴らしいビルが来年完成する。現在、本館校舎を中心に隣接地の取得も進み、将来的には TDC ビルを一体に広げ更なる進歩を目標としているが、これは若い世代の人達が進めてくれることを期待する。歯科大学の現状としては、日本の人口動態から見て順調に進んでも大学の定員割れは危惧されるが、幸い本学の学生は大変優秀な生徒が多く国家試験の合格率から見ても「授業料は高いがきちんとした教育をしてくれる」という評価をいただいている。文科省からも高い評価を頂いていることから授業料のダンピング合戦に飲み込まれない様質の高い大学を維持したいと考える。更に血脇イズムを継承した人間形成として、東京歯科大学の成り立ちから医療人としての態度、マナー、接遇などの教育も取り入れ、一流人としての歯科界のリーダーを輩出すべく同窓会と一体となって取り組んでいきたい。

#### (2) 学事について

(石井拓男副学長)

現在、国家試験は厚労省からの国家試験合格ラインの引き上げと文科省からの歯学部定員減という要請で大変厳しい状況の中、特別な対応をとり学生もそれに対応しているが、平成26年からは更にレベルアップが予想されている。

#### (3) 水道橋病院改装について

(一戸達也水道橋病院長)

本年1月より、2階において総合歯科、口腔外科の診療をスタートし、1日400名~700名の患者が来院、ユニット40台で1日10回転とフル稼働している。白山通り沿いから東京歯科大学の病院であることがわかるようアピールし、新しい設備としては、患者サービスのワークショップからの意見で授乳室が設けられた。TV番組「アド街っく天国」で第7

位、神田三崎町の「歯のことならおまかせ」としてとりあげられた。

#### (4) 法人より

(金子 譲法人理事長)



学納金に関して、日本経済の動向から考えると将来的には下げること必要と思うが、まずは移転を無事成功させてから検討したい。大学の統合・医学部新設に関しては其々メリットがあるものの現在は「大学の質」の充実に努めることが、将来どのような状況になろうとも有利な展開に繋がると考える。また医学部新設は20年後に来るとされている医師過剰問題を重く受け取めている。

大学法人としてこれからの東京歯科がどうあるべきか…中長期的な計画をソフト・ハード面から策定する必要がある。大学の現場としては、質の高い学生に対し手厚い指導と科学的な根拠に基づいた教育を、病院としては水道橋を中心に市川総合病院、千葉病院や関連病院など今後の歯科医学の発展には医科との連携が更に必要と考えている。勉学と人間性の涵養の両面において、歯科医師たる前に人間たれという伝統的な血脇イズムを教育指針とし、その中で建学の精神を汲み取り積み上げることが大切と考えている。また、法人として本学の歴史的な立ち位置をより明確にするため「東京歯科大学の歴史と伝統を検証する会」を発足させている。そして今後も学生の質を維持し、教育・研究・診療ともに歯科界の先導的な立場として同窓会と一体となり、東京歯科大学を更に進



歩させたいと考える。

休憩をはさみ、本部同窓会からは以下の題目があった。

#### (1) 会務報告

(高橋義一専務理事)

現在同窓会の最大の懸案事項としては、会費収入の減少、若い会員の未入会が上げられている。その対策として、本年度から若手ネットワーク委員会が設立され、積極的に様々な事項を検討している。今後は在校生とも連携を持ち、在学中は準会員として同窓会と関われるようにし、大学や同窓会との繋がりが卒業と同時に切れてしまわないよう意見を取り入れる。また、卒業後の進路支援として関連病院や開業医での臨床見学システムを準備する。卒業後5年間を重点的に、歯科医師としてのスタートを同窓会としてバックアップし、節目の年齢での同期会開催を同窓会で支援する。会費については、減額して一括納入とすることなどを検討している。学年代表者会の開催については、しばらくは大学との連携という意味から共催とする。その他、国家試験不合格者への支援。様々な情報の伝達として情報ネットの活用と同期会での拡散。などを検討している。そして最後に、大学への支援として、国試合格率、新入生のレベルともにトップクラスに引き上げた母校への感謝の気持ちと、血脇先生を称え血脇イズムの継承という意味でも是非血脇ホール建設の寄付をお願いしたい。



(2) 若手ネットワーク委員会からの  
提案

(佐々木葉子委員)



委員会では、若い先生にとって魅力ある同窓会となるため、今何が必要で何を学びたいと思っているのか、生の声を聞き要望を取り入れていきたいので、是非、要望を聞かせてほしい。大学、開業医、関連病院、様々な架け橋になるのが同窓会であり、若い先生方の素晴らしい能力を無限に大きく開花させる知恵を持っているかもしれない。東京歯科の同窓会では沢山の活躍している先生がいるので、是非活用していただきたい。せっかくの同窓会を使わないのはもったいない。是非とも同窓会に入会してさらに飛躍していただきたい。そして今日のこのことを友人に横の繋がりとして伝えてほしい。

その後、協議事項として「同窓会の未来と期待」というテーマで宮地建夫副会長を座長に、若い先生方を中心に同窓会へ期待することなどの話を聞いた。若い先生方からは「同窓会に入るメリットとして会員のみ無料という講習会を開催してほしい」「オープンセミナーを開催してほしい」「色々な情報を横に繋げるためにも、関連病院と連携して開催してほしい」「水道橋病院などでは、今までにもセミナーを開催しているが、なかなか情報が伝わらない」「今後地域に帰ってからも継続的に研修を積んでいきたいので、地域での開催も検討してほしい」「同



窓会と地域歯科医師会の入会について」「女性の先生方の話を聞く機会を充実してほしい」「卒業後数年すると、生活の基盤が変化してくる年齢なので、出来るだけ負担にならない講習会開催を検討してほしい」「大学に籍を置いていた者も外へ出て開業する節目の年齢なので、同窓会の開催を予定している。是非支援をお願いしたい」などなど沢山の生の声をきくことが出来たことは、同窓会の今後に向けて大きな収穫だと思う。今後は、話をしてくれた先生方の期待に添えるよう様々な委員会で検討を進め、出来るだけ早い時期に実現することが期待される。

最後に浮地副会長より、「本日は沢山の若い先生方からの意見をきくことが出来た。先生方の意見を聞いていると、この若い先生が同窓会に入会していただけると、本当に心強いと感じた。」と、本日の参加への感謝の意を込め閉会となった。

その後、場所をさいかち坂から東

京ドームホテルへ移し、懇親会が開催された。矢崎会長の挨拶の後、本日出席の最長老、長谷川正康先生のお元気な乾杯のご発声とともに、懇親会が開催された。クラス代表者と本部同窓会関係者が一堂に会して、情報や意見の交換が行われ、ここでも若い先生方からの更なるご意見をいただくことが出来た。本年から発足した若手ネットワーク委員会に卒業3年目までの先生を何らかの形で参加してもらってはどうかというご意見もいただき、今後、委員会や執行部にて前向きに検討することとなった。

追記) 代表者会の翌日、この日参加された若い先生から早速メールをいただいた。その内容は、「個人的ではありますが、留学について…」という同窓会への希望が書いてあった。彼の目はもう世界に向いているのだ。個人的でも何でも良いのである。こういった連携が今後に繋がるのだと思うととても嬉しくなった。ひとりずつでも良い。その人がまた一人に伝えてくれれば、伝言ゲームのように同窓会の輪が世界中に広がることを期待したい。

「こぞりて磨かむ、未来は響けり…」  
東京歯科大学同窓会の未来が明るく輝くものであることを予感させられる素晴らしい時間であった。



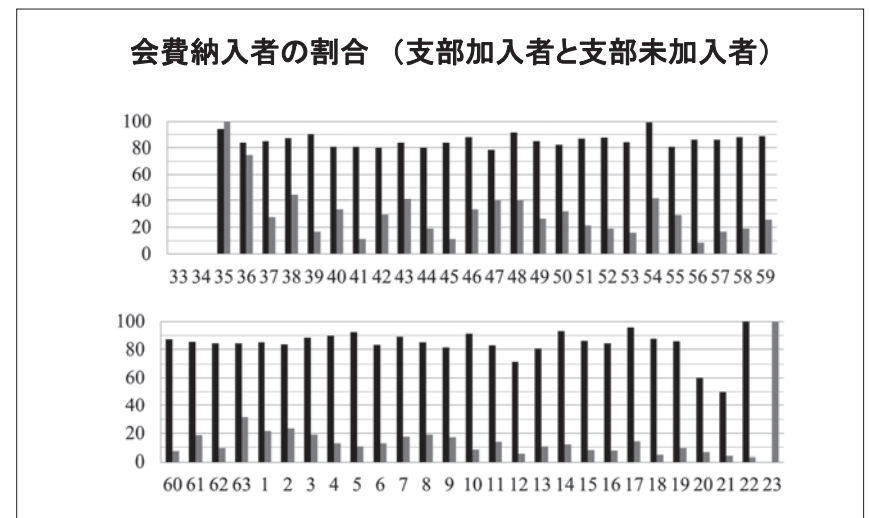
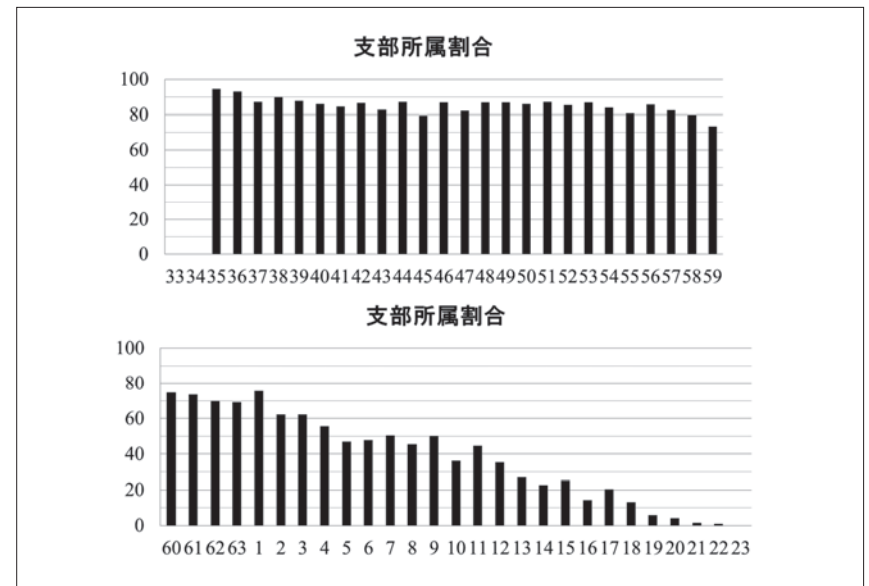
## 会務アラカルト

### 「より強い会員との連携」

矢崎執行部では「より強い会員との連携」を重点課題に掲げ、日々の執行に努力しております。これは前大山執行部からの同窓会改革（事業改革、組織改革）に続くもので、同窓会員とのつながり、絆をしっかり強めようとする会員レベルの改革です。各地域支部連合会・支部長会での本部役員との懇談、理事会での地域理事からの報告、情報ネットの普及などにより少しずつ本部から地域支部連合へ、支部へ、そして同窓会員の先生方との情報共有化が進んでいるかと思われまます。しかし、「より強い会員との連携」のためには、まだまだ解決すべき重大な問題が山積しております。それは支部未加入者の増加、若手同窓会員の同窓会離れです。矢崎会長は支部加入促進、若手同窓会員、女性同窓会員との連携強化を重点課題として、平成25年度からさっそく実施しようと考えており、執行部が編成された1月以来、各委員会ではこの課題に全力で取り組み、鋭意その実現に向けて検討を重ねてまいりました。

### 支部未加入の現状

この問題を説明するデータがいくつかあります。グラフは、卒業年度ごとの支部加入者の割合です。昭和35年卒から平成23年卒業まで示してあります。昭和35年卒から昭和58年卒くらいまでは8割を超える支部加入率を示しております。それが59年卒以降8割ラインを下回り、平成2年卒頃からは60%前後になり、平成4年卒以降では60から40%と下がってきています。「卒業した後何年は勤務医で開業していないので支部は加入しないよ」という説明も以前は



よく聞かれましたが、今は平成24年となり平成卒も卒業20年を超えるようになり、さすがに「勤務医だから」という説明よりも、「若い人は同窓会から離れだしている」という声の方があっているかもしれません。現在の支部加入率は全体で70%ですが、このままですと60%に、さらに将来は50%を切ることもあり得る懸念も感じます。

次に支部加入者と未加入者の会費の支払者率を比較してみましょう。

グラフはそれぞれの会費支払者割合です。卒業年度ごと、全体的に高い方が支部に加入している人の割合で、低い方は加入していない人の支払者の割合です。支部長の先生方のご苦勞により支部加入している人のほとんどは会費を払っております。一方支部に加入していない人の多くが会費未納であります。このように支部未加入、同窓会ばなれ、会費未払い傾向が重なりますと、将来の同窓会の組織基盤そして財政基盤をゆるが

す大問題につながってくるのです。

一昨年支部未加入者にアンケート調査を行ったことがあります。未入会の理由として「支部に加入することを知らなかった」、「どこに連絡したらよいかわからない」、「特に気にしていなかった」という回答が多くありました。卒業してしばらく同窓会のことを意識しないですごし、気が付いたときは会費未納がかさなり、その結果自ずと同窓会から距離をおく流れが考えられるようです。そのようなことから、早いうちから同窓会の存在を認識し、しかも何らかの同窓会の恩恵を感じるようにし、更に先輩との直接のつながりをもてるような体制作りがまず基本となるわけです。

#### 若手との連携推進のために

矢崎執行部では、この重大課題を解決するために執行部編成を大きく変えました。若手ネットワーク委員会を設置し、理事におきましても会員、若手ネットワークの専任として担当常任理事をおき、この若手ネットワーク委員会を中心に学術委員会、保険委員会、シンクタンク委員会、大学連携委員会など事業推進部との連携をとりながら事業を力強く推進させる枠組みです。“待ちの体制から若いうちから積極的に同窓会の存在をアピールする”への戦略変更ということで、矢崎会長、高野常任理事が先頭に立って新入会員のオリエンテーション、臨床研修医の修了式にも参加し若い人に同窓会を紹介したり、また7月の学年代表者会でも若手ネットワーク委員会から佐々木委員と木暮委員とが出席し、若手同窓にむかって“同窓会活動への参加”、“支部加入”について熱いメッセージを送っています。また母校の方からは新入生へのフレッシュマンセミナーやエレクトィブスタ

ディなどに矢崎会長をお招きいただき、在校生に対して同窓会を紹介する機会を頂いています。

このように一つずつ推進の動きは始まっておりませんが、この度、平成25年度スタートをめざす強力な若手同窓との連携推進案を、若手ネットワーク委員会を中心に事業推進部全体でまとめてまいりました。この提案は理事会でも提案され、平成25年度から実施の方向で進んでもよいという基本的方針について合意を得、その方向で評議員会に向けて進める考えであります。最終的な案が固まるまで関係各組織はもちろん、同窓会内部においてもすり合わせをしてゆく必要があります。ここでは今後の推移、進展により修正される点もあるかと思いますが、若手同窓会員との連携プログラムの原案を紹介することにしましょう。

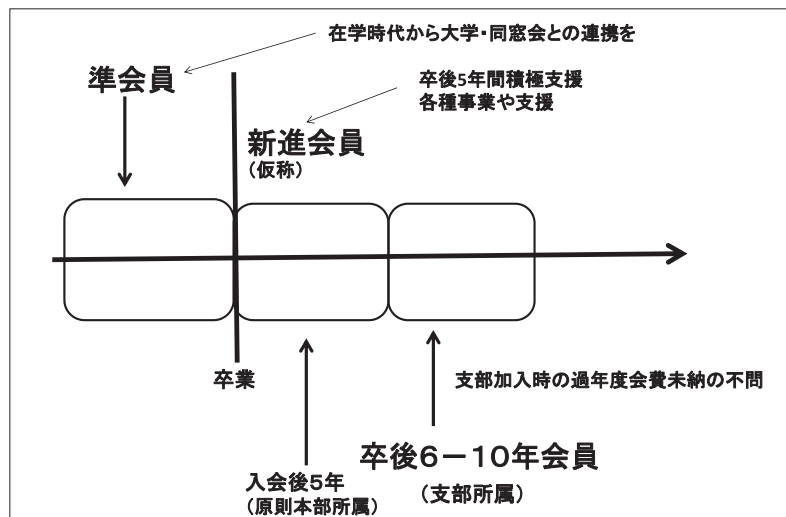
#### 若手同窓との連携推進プログラム原案

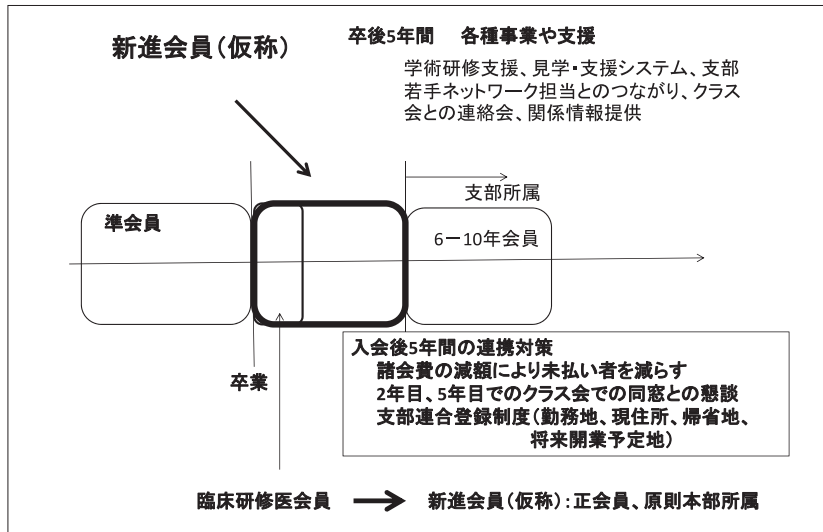
この原案は、単に若手同窓会員の支部加入の数を増やし、会費の増収を図ろうというのではなく、若手同窓会員への支援を図りつつ、全年齢層の同窓会員が全地域で繰り広げられる同窓会活動に参加する体制を整え同窓会組織の一体化を図ろうと

するもので、これにより母校の伝統的精神の高揚並びに発展を支える強い基盤を作り、同窓会としては将来の同窓会の可能性を広げようとするものなのです。

現在検討中の若手への事業案は、母校在学学生を、母校以外出身の大学院生や臨床研修歯科医（準会員構想）、そして卒業後10年までの同窓会員を中心に展開するものと考えています。特に卒後10年までは生涯研修にとっても一生の方向性を左右する大切な時期であり、理想的な歯科医師像を考え、迷わずその道へ進められるようサポートしてゆくことは同窓会事業として高い意義をもつものであります。その大枠の中でさらに特定した卒業後5年までは、臨床研修歯科医としてのスタート、そして終了すると大学や地域の勤務医として大きく飛躍する時期であり、同窓会としてはこの時期の若手同窓会員を手厚く育成することを最重点課題と考えました。

（準会員構想）対象は、母校在学学生、他校を卒業した母校大学院生、母校三病院臨床研修歯科医です。ただし、同窓会会員資格、義務、権能などを強く意識するものではなく、大学との連携をもとに時間をかけて制度として築いてゆくものです。考





えられるものとして、県人会を通した同窓会との連携、出身地登録と出身支部からの応援、実習材料提供など基礎・臨床実習関係の支援、クラブ活動支援、臨床見学、進路情報の提供と相談、エレクトティブスタディへの協力（学生の短期留学への助成）、優秀学生・大学院生の表彰、各種学術事業の受講の優待など考えています。

（新進会員構想）従来あった臨床研修医会員を5年間に拡大し原則本部所属として卒業後5年間しっかりと本部との連携をとってゆく構想です。平成25年度若手同窓との連携推進事業の中心をここにおき、歯科医師が臨床に携わって行く上で重要な生涯研修ではスタートの5年間を同窓会が応援してゆこうとするもので、各種学術事業（支援セミナー、優待、無料招待）、各種若手ネットワーク事業（見学・支援システム、クラス会（学年連絡会）開催、支部ネットワーク担当との情報交流、広報を通した情報交換など）、若手学年代表者懇談会での意見交換などを考えています。この間支部連合や、支部との連携もきわめて大切になりますので、支部連合会登録構想も考

えております。

（支部連合登録構想）この5年間、会則上での「支部加入義務」を緩め、その代り支部連合会への登録制度を導入します。このようにすることで、支部加入の意義をはじめ支部についての情報提供が可能になりますし、例えば2年目、5年目など節目の年に本部がクラス会を企画し、クラス会活動促進とともに支部、地域支部連合の同窓が直接コンタクトできる機会をもらうようとも考えております。

（地域の若手ネットワーク窓口構想）準会員、新進会員、卒後6-10年会員の支援で重要となるのは地域からの支援です。在校生、卒業生を問わず、歯科医師の日々の活動や歯科医療の現状、臨床見学、勤務や開業のための情報交換など、出身地域との交流から発せられることが有用だろうと期待しています。若手同窓会員にはできるだけ、出身地、勤務地、住居地、将来の開業予定地など限らず登録してもらうように進めていきますので、それに応えるよう各県支部、あるいは地域支部連合会に若手ネットワークの窓口としての若い先生を紹介してもらうように進め

られればと考えています。

（会費減額構想）若手同窓の会費納入状況は極めて低く、この未払いの積み重ねによって若い同窓が同窓会活動から離れる要因になっているのではと考えることができます。地域支部連合での支部長の先生方との話でも若い人には会費が高いのではないかと意見、また委員会の先生方からも多く同じ意見がでておりました。現在卒後5年間の同窓会諸会費について入会金、会費、共済金の減額を検討中で、特にこの年齢では臨床研修医の身分であったり、その後大学院あるいは勤務して年数も少なく現在の会費をはらうには十分な財政力を持っていないことを認識して検討してゆきたいと考えております。

### 重点課題として

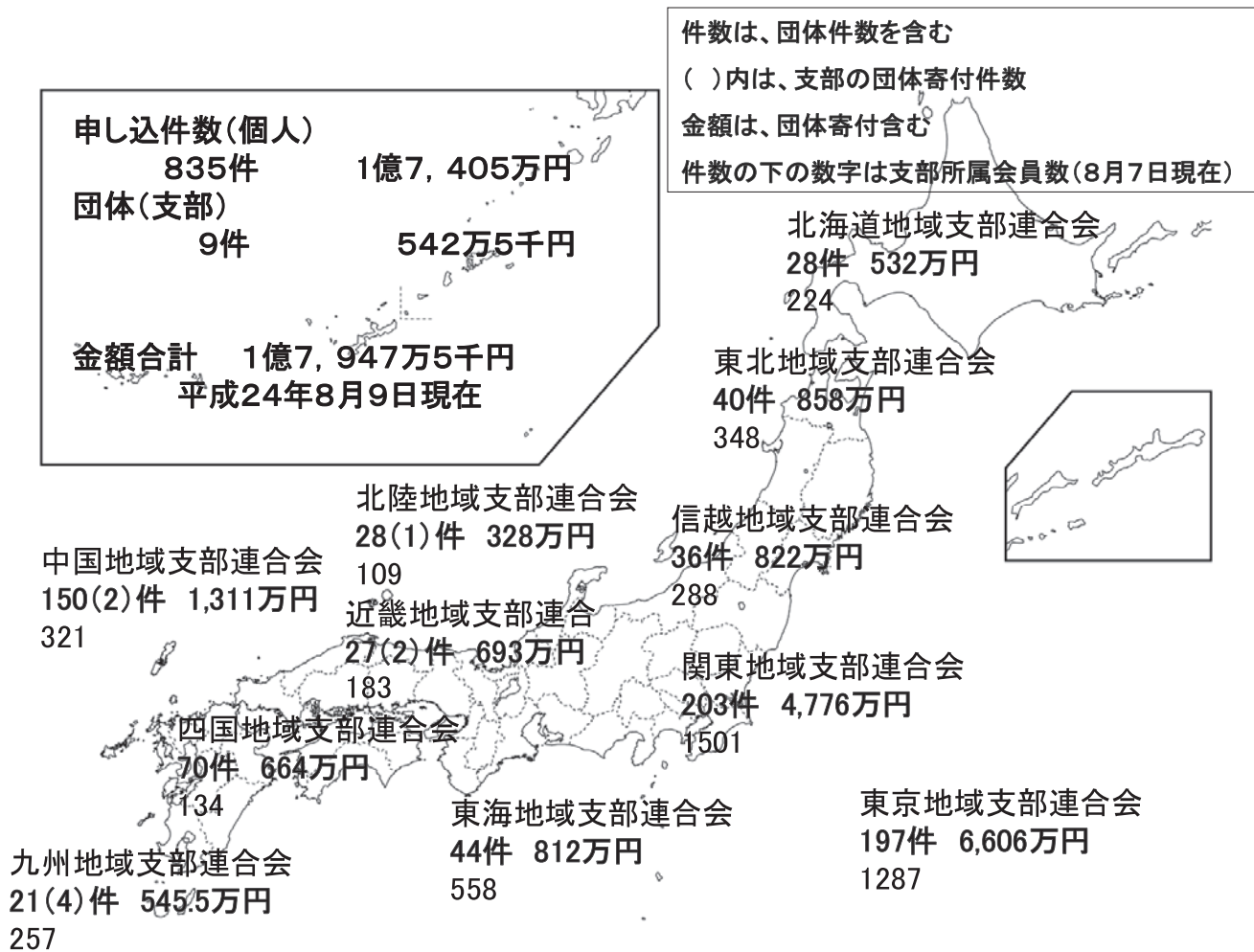
若手支援に関することはかなり以前より検討され、いろいろ実施されてきています。たとえば前執行部の同窓会事業改革の中でも若手支援セミナー、学術セミナーなどの優待、また試験的に地域を限定して支部未加入の若手同窓へ支部加入の勧誘資料の郵送を行ってきたりしています。今回紹介した若手同窓との連携推進事業はそれらの経験をもとに考えられたものであり、実施にともない各委員会そして執行部の負担はさらに大きくなると予想されます。しかしながら、この機に重点事業として徹底して事業を展開することにより初めて事態が動き出すのではと思われれます。東京歯科大学同窓会120周年を近くに迎えるに当たり、全国同窓会員が総意・総力を結集され本事業に応援していただけることを切にお願いいたします。

## 新血脇記念ホール建設への協力をお願い

来年竣工の新血脇記念ホールの建設のための募金協力はお済ませでしょうか。先生の周りにいらっしゃる同窓の先生に募金協力をしているかのご確認をお願いできませんでしょうか。一口20,000円で、できるだけ多くの同窓がこの募金に協力し

てもらえるようお願いしております。母校と同窓会一体でこれからの厳しい歯科の世界を乗り越え、歯科界の牽引役となり社会に貢献しようという壮大な思いを抱き、そのため同窓にとっての象徴とすべき新血脇記念ホールの建設です。このホー

ルにかかる建設費用を同窓会会員の協力で完成されることを願っております。平成24年8月9日現在寄付申し込み額は179,475,000円です。目標6,000人から5億円のご協力をめざしてお願いを続けております。



今回の寄付は大学への協力もありますが、もう一つ血脇先生を称えた新血脇記念ホールの建設の為でもあります。血脇先生は、東京歯科大学の発展のみならず、同窓会、歯科医師会組織の確立そして歯科医師の地位向上のため尽力された我々にとっての師であります。同窓丸となり血脇先生を記念したホール建設に協力し、この建設に当たり今後の歯科界をリードすべく血脇先生の熱い志をついだ人財育成に携わるようにし、このホールを我々同窓の熱い気持ちの象徴としてゆこうではありませんか。そのためには目標額の達成、そして一人でも多くの同窓の協力が不可欠であります。

## 東日本大震災対策部会

大震災から1年半が経過しようとしています。最近では報道されるニュースも次第に少なくなり、被災地での復興・復旧はつい順調と思ってしまうのではないのでしょうか。対策部会では、被災地域の支部との密なる連絡をとり、同窓会報などを通して、復興・復旧の現状そして被災された方々の気持ちなどを伝えてゆこうと考えています。

この6月、矢崎執行部では、理事者に被災地を訪れてもらい、自分の目で見えたもの、感じたことを地域にもって帰って伝えてもらえるよう被災地視察を計画しました。今回の視察には母校より金子理事長が参加され、全行程ご一緒していただきました。また、前日行われました移動理事会終了後の会合では、宮城県支部より黒澤祐一支部長、小野 喬前支部長、田島 守監事、松尾浩英理事においでいただき、宮城県での大震災の被害の大きさ、そして現状の問題点などについて詳しくお話を伺うことができました。また、小野前支部長におかれましては、今回の視察コースの計画にご協力いただきました。ありがとうございました。

翌朝9時、自家用車組とバス組とで石巻市内の被災地視察がスタートしました。石巻市は、大地震により起きた津波により甚大な被害が出たところです。津波で旧北上川河口から逆流した水で旧市街地全域が、また、新北上川河口から流域部が広域水没または浸水。さらに広い地域にある各浜が壊滅的な被害を受け、多くの貴重な命が失われました。特に大川小学校では多数の子供たちの命が奪われるという痛ましい出来事がありました。

バスは市内丘陵地である日和山公園に向かいました。日和山はかつて松尾芭蕉も訪れた景勝の地で、ここから石巻市内を一望できる場所としても知られておりますが、今回は被災したのちも復興せず家々もなく裸にされた旧北上側河口近くと太平洋沿岸の被災地を眼下に見ることになりました。ここでは昭和54年卒業の鈴木 裕先生が同級の杉山理事とのお話で日和山公園に来てくださり、公園から見る被災の状況と現状を説明してください

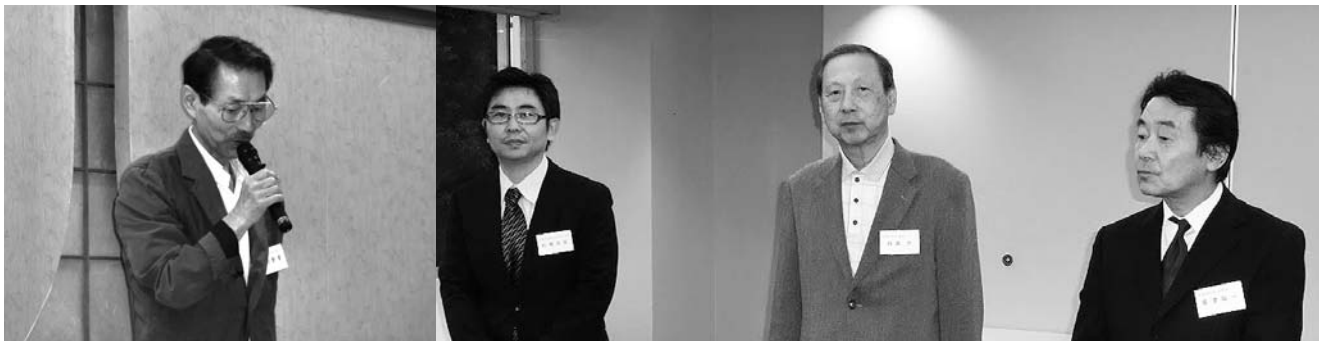


当時の様子を語って頂いた鈴木 裕先生

ました。

そしてバスは太平洋沿岸に向かい日和大橋に。日和大橋の近くの緑地帯には超大きな缶詰が横になっていました。津波で水産加工場から流されたもので、鯨の大和煮の缶詰をシンボルにしたオイルタンクだったとのこと、津波のすごさを感じさせるものでした。そしてバスは一路野蒜（のびる）そして東名（とうな）の方へと向かいました。仙石線の駅がありましたが、震災により駅は壊れ、線路も失われています。人々が普通の生活をしてのんびり電車をまつ東北の風景は一瞬にして失われ、一年半たった今でも壊されたままであり心を痛めます。

さて、同窓会報での被災地の現状の報告を、今回視察に参加された4人の地域選出理事にお願いしました。8月号ではまずお二人の報告を掲載いたします。



小野 喬先生

松尾浩英先生

田島 守先生

黒澤祐一先生



① 鯨大和煮缶詰タンク



② 日和山公園より大橋を望む



③ 日和山公園にて視察中の理事長



④ 仙石線東名駅の惨状



## 石巻大震災視察行（平成24年6月10日）

四国地域支部連合会選出理事 久保田 晃

前日の9日、同窓会役員は全国各地より松島に集合、久しぶりの移動理事会を開催した。

懇親会には金子理事長、地元の前、現支部長先生もご出席いただき、これまでの状況を説明して頂いた。特に新理事の皆さんの同窓会に対する熱い思いを語る様には、苔の生えた私などは終始圧倒されがちであった。

また、ここに書くのは場違いかもしれないが、金子理事長のお話に触れておきたい。それは東菌の水道橋移転に相当に神経をとがらせている向きがあり、日本歯科医史学会誌29巻第3号（2012年5月）に「歯科学術沿革史」高山紀斉講演、上村伸吾筆記（1892年）において底本の存在を明記していないのは、学徳上アンフェアであるという趣旨の論文が載っていることに違和感を抱いておられた。

翌10日9時、バスで三陸自動車道を石巻へ。道路端の若葉が目にしみる平和な光景は石巻インターを下りて港へと進むうちに様相一変、田園の住宅地かと見えるのは、ほとんどの家が流された後に辛くも建ち残った住宅だが、よく見ると家の中を津波が通りぬけて中は伽藍洞。タンクがひっくりかえり、壁をはがされ



一見何の変哲も無い住宅地に見えるが



今だに機能していない市立病院  
（日和山公園より）



被災前の対岸



被災後の対岸



被災前の中瀬白い楕円形の建物は  
石ノ森萬画館



被災後の中瀬

を視察に行く。被害を受けていながらも一部で操業している工場。道路の両脇に二段三段に延々と積まれている唯の鉄の塊にすぎなくなった自動車、単車。一見今でも走れそうに見えるものもある。各所にピラミッドのように整然と積まれた「がれきの山」。そういえば昨夜の地元の先生が、「全国各地の自治体は、どうし



道路端に延々と続く被災自動車の山



台形に積み上げられた瓦礫の山

て、骨組みだけが残った工場など、バスの中は声もない。

高台の日和山公園で鈴木 裕先生（昭和54年卒）が迎えて下さり、我々の顔を見て、思わず言葉に詰まるご様子に、被災以来の計り知れないご苦労を思う。対して我々は唯うなずいてお話を聞くしかないのが申し訳ない。

当時の様子、身元不明ご遺体確認作業、個人的、また歯科医師会としての多方面にわたる気の遠くなるようなご活動を、公園の眺望のきくところを回りながらお話しいただいた。

先生とお別れして海岸の方の様子





仙石線野蒜駅のホーム

で快く瓦礫を引きうけてくれないの



6月9日、宮崎空港より大阪着。空港ロビーで、久保田先生にお会いし、ご一緒させて頂き、軽い食事の後、仙台空港に向かう。機中は穏やかでした。仙台空港は、予想に反し、賑わっていた為、復興が進んでいるやに思った事でした。電車を乗り継ぎ松島駅着。大観荘ホテルバスにて一路ホテルへ。途中、道路沿いの店はオープンしている処もあり、安心したのですが、松島は湾になっている為、他所より津波の被害は少なめだったとの事でした。ホテル大観荘は、山の頂上に位置したお陰で、何事も無かったかの様なたたずまいでしたが、ロビーで危うく転びそうになり、びっくり。よく見ると、地震による床の変形だと分かりました。如何に地震が凄かったか思い知りました。懇親会では、宮城県の4名の先生に出席頂き、色々とお話されましたが、特にガレキの受け



柱だけになった倉庫

だろうか」とさびしそうに話しておられたのを思い出す。

胸に重く響く、有益な視察を終えて再び三陸自動車道へ戻り。途中見る影もなく破壊された仙石線野蒜駅を車窓から見学。それでも駅の周囲に震災後建築されたと見える民家の姿に復興へのエネルギーを感じつつ、

## 石巻視察について

九州地域支部連合会選出理事 田部和彦

入れ先が決まらず、大変困っているとの事。放射性物質の影響は無いので、各県は是非受け入れて欲しいとの事でした。政府は、もっと頑張っ

て欲しいですね。翌日バスにて、大観荘出発→三陸自動車道→日和山公園→石巻市立病院→日和大橋→巨大鯨大和者缶詰→日吉大橋→日本製紙工場→三陸自動車道→仙石線野蒜駅を視察。1年以上たっているのに、海岸沿いは人の気配も無くゴーストタウン状態。処どころに家の骨格だけで、窓はなし、リフォームは無理ではないかと思えました。津波の恐ろしさを肌で感じました。日和山公園で、石巻市の同窓、鈴木裕先生が我々をお待ち下さり、色々話を伺いましたが、最初しばらくは、当時の状況を思い浮かべると声が出なく、涙が出てくるとの事で、我々一同も心で貰い泣きした次第でした。



外装だけになった家屋

仙台駅で解散。お世話役の財部常任理事他に深謝。

(石巻市のデータ) 死者3,182。うち歯科医師6。行方不明557。住家の全壊22,357。津波の浸水高鮎川で7.6m。浸水面積73平方キロ(県下で最大)。

話は変わりますが、私が生まれたのは昭和16年で、第二次世界大戦が始まり終戦が昭和20年でした。私の町は、宮崎市内から16km離れていてお陰で、爆撃は免れ、家は残りました。小学校では食べ物は充分でなく、他人の柿木や梅木に登り、柿・梅の実を盗んでは、空腹を満たしていました。主食はサツマイモの葉と茎の雑炊で、当時、砂糖は無く、しょう油、ミソも不足していたようです。後に砂糖の代わりにズルチン、サッカリンを水に溶かして飲んでいました。米の代わりに、麦ごはん、美味しいとは程遠いものでした。私達の年代は、戦争のせいで苦労が多かったと思い込んでいましたが、視察が終わってから、如何に甘かったか思い知らされました。

東北地方の一刻も早い復興と、震災でお亡くなりなされた方に心からご冥福をお祈り致します。



石巻市民の決意

## 卒研レポート2012

### イブニングセミナー 1

## 「有病者の歯科治療で何を注意すべきか」

### ～歯科治療時に医療事故を起こす前に～

2012年6月28日(木)、同窓会卒後研修セミナー「有病者の歯科治療で何を注意すべきか」～歯科治療時に医療事故を起こす前に～が、水道橋校舎13階セミナー室にて行われました。高齢化社会が進む中、歯科治療を行うにあたりまず第一に念頭に置いておくべき内容ではないでしょうか？卒後間もないと思われる若手の先生から、臨床経験豊富なベテランと思われる先生まで多数の先生方に加え、金子 譲理事長も出席されていました。



まず学術委員である安藤友彦先生より、ご自身の患者さんの症例を元に主旨の説明がありました。そして市川総合病院オーラルメディスン・口腔外科学講座教授である片倉 朗先生による「有病者の歯科治療をどのようにマネジメントするか」の講演に移り、歯科治療時にかかる精神的かつ肉体的ストレスを考慮することの重要性を、先生ご自身が受けられた抜歯時、印象採得時のストレスを経験談として折り込まれ語られました。

次に同病院麻酔科の小板橋俊哉先生による「緊急時の対応」の講演がありました。まとめとして、・既往歴のない患者が健康な訳ではな

い。・高齢者の二人に一人は有病者である。・緊急時への対応も大事だがもっと大切なのは偶発症予防である。と言われていました。「たぶん大丈夫」＝「もしかしたらアウト」とならないためにも普段からモニター装着を心掛けることの必要性を説いておられました。

続いて同病院内科の西田次郎先生による「内科疾患と歯科治療－歯科治療に必要な基礎知識」の講演でした。主に先生の専門分野である肝疾患について、歯科でも知っておくべき検査値の説明があり、その中でも総ビリルビン値に異常をきたす「Gilbert 症候群」という絶食状態時に黄疸が出るものについて教えて頂きました。また肝硬変の人への投薬においては、マクロライド系、テトラサイクリン系の抗生剤、NSAID(ロキソニン、ボルタレン)等は避けるようにとのことでした。



その後学術委員の花井淳一郎先生の進行によるディスカッション形式で、基礎疾患を持つ患者さんの観血処置をするにあたり内科の先生への対診の手紙の書き方について話し合いがなされました。6つの症例における手紙の内容が映像に示され、それについての良否を聞くことができ

ました。実際に処置を行う歯科医が、基礎疾患の知識のないままどの程度の侵襲を患者さんに与えるのかわからない内科医に対して、抜歯を行ってもよいか？などといった無責任な質問にならないように、各種疾患の知識を得てポイントを押さえた的確な文章を心掛けるように、といったドキッとさせられるようなものでした。



質疑応答の後、金子理事長がこのセミナーについてお話しされ、各先生方の講演の内容はとても身近で大変役に立つものであったこと、加えてこのセミナーの構成が素晴らしかったことを述べられ、高く評価されていました。

とても内容の濃い充実したセミナーで、3時間があっという間に感じられました。



(取材・広報部 小貫飛鳥)

## 卒研レポート2012

インプラントセミナー  
マスターコース パート1

5月12日土曜日10日間のマスターコースになり2年目の今回、日本のインプラント治療を代表する講師陣が日替わりで講演や実習をしていただける充実した内容となっています。

今回より変わった点は、テキストが紙媒体ではなく、各受講生に1台ずつiPadがテキストとして配布され、その中には講演、実習のスライド、動画が収められています。受講生は、講義や実習を聞きながらX線など細かい点はiPad上で確認することができ、受講後も復習できます。



## &lt;第1日目&gt;

初日は、開講式の後、宮地建夫先生による「欠損歯列の考え方」の講演でした。32年に及ぶ貴重な症例を通して、どのように咬合崩壊が進み、また守っていくのかを学びました。

続いて武田孝之先生による「欠損補綴におけるインプラントの役割」の講演でした。何のためにインプラ



ント治療を行うのか。欠損歯列の病態把握、前歯部の咬合支持の安定の重要性などを学びました。

昼食後、宮地先生、武田先生によるディスカッションでは症例を通して、上減の歯列がいつ始まったか、進行のスピードについてのお話がありました。インプラントでの対処法を学びました。



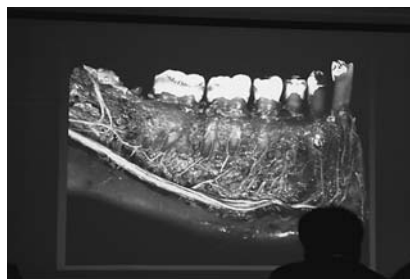
続いて井上孝先生による「インプラントのための臨床病理・病態」非自己インプラントの病理、適応症のチェックリスト、問題となる全身疾患および薬剤、必要な臨床検査などについて学びました。

最後に小宮山彌太郎先生による「インプラント臨床の基本」では先生の臨床の基本から考え方詳細な術前管理、術式まで詳しく教えていただきました。

## &lt;第2日目&gt;

はじめに阿部伸一先生による「インプラントの解剖」の講演のあと口腔解剖標本剖検の見学実習がありました。

舌下動脈、下顎管など有歯顎と無歯顎の位置の違いなど、清書では得られないインプラントにおいて必要な解剖を、また神経線維の再生のメ



カニズムなどを解りやすく教えていただきました。また実習においては、受講生が実際に筋肉骨神経動脈などの位置関係を触れることで習得しました。



午後は一戸達也先生の「インプラント手術時の全身管理」管理項目の読み方、気管切開の実習を行いました。

吉成正雄先生の「インプラントのための材料と表面構造」表面構造の違い、表面処理を学びました。



<第3日目>

6月後半になり本日より本格的な実習が始まります。

はじめに井上 孝先生による「インプラントのための臨床検査の応用」臨床検査の重要性、服用薬剤、基礎疾患について学びました。



松坂賢一先生による「インプラントのスタンダードプリコーション」滅菌、消毒のポイントについて学びました。

矢島安朝先生による「埋入時の医療事故とその対応 インプラントの外科手技の基本」では外科処置の基本的な手技や、動脈損傷などの応急処置などの講演がありました。

ブタ顎を使った「外科手技実習」では、切開・骨膜剥離・縫合の基本的な手技のほかに、減張切開・オトガ



イ神経の確認などを習得しました。



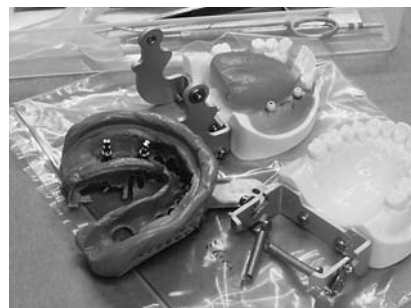
上顎洞粘膜の付いた模型にて、上顎臼歯部欠損へのリフティングドリルを用いた上顎洞挙上術（オステオトームの併用）では上顎骨と洞粘膜の間に穿孔させる感覚を体得しました。



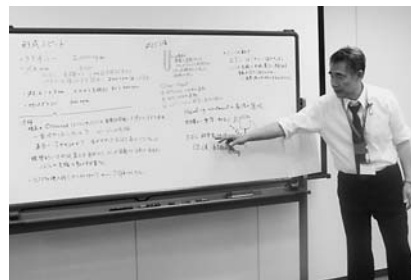
4日目の埋入自習模型：  
下顎前歯部に1本、臼歯部に2本埋入しました。

<第4日目>

本日はいよいよ小宮山彌太郎先生、関根秀志先生によるブローネマルクインプラントのドリリング・埋入・印象採得の実習でした。



実習の合間には小宮山先生がホワイトボードに臨床の要点などのレクチャーがありました。



この4日間で前半を終えましたが、後半も充実した内容を期待できるものとなりました。

(取材・広報部 島田 篤)

# 保 険

平成24年の診療報酬改定が行われてから4カ月がたとうとしております。今回は周術期の口腔管理等が新しい項目として入って来ましたが、医科との連携上、取扱いに戸惑っている方も多くおられると思います。厚労省からは、それらの補足説明として、3月30日より7月3日までに7回の疑義解釈資料が出されております。

今回は、上記周術期の口腔管理を含め、疑義解釈の意味合いをわかりやすく解説し、明日からの診療にお役立て頂ければと思っております。

## 主な疑義解釈の解説（H24その1～7より抜粋）

### 【初再診】

#### 再診時歯科外来診療環境体制加算

- (問) 歯科外来診療環境体制加算の施設基準適合の届出をした保険医療機関において、1日2度来院した場合であっても、同日2回目の再診時に再診時歯科外来診療環境体制加算を算定しても差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》再診時歯科外来診療環境体制加算は再診料に対する加算のため、1日2度来院であっても再診料を算定できる場合は加算できます。

### 【医学管理】

#### 歯科衛生実地指導料

- (問) 歯科疾患管理料に係る文書提供が3月から4月に変更になったが、歯周病安定期治療で来院間隔が3月以上になった場合、歯科衛生実地指導料に係る文書提供はどのように扱うのか。
- (答) この場合においては、当該指導料に係る指導を実施した時点で文書提供を行うこと。

《解説》歯科衛生実地指導料は3月に1回文書提供を行なうよう定められていますが、SPT期間中で治療間隔が3月を超えた場合は、その間隔で指導を行なった時に文書提供を行なえば算定できます。

#### 周術期口腔機能管理計画策定料、周術期口腔機能管理料

- (問) 周術期口腔機能管理が必要とする患者は様々なケースが考えられるが、う蝕や歯周病等がない場合等については、当面は「術後合併症」という傷病名を用いて算定して差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》歯科疾患病名が無い場合でも、周術期における肺炎予防のために口腔ケアを必要とした場合は、「術後合併症」病名で周計、周管を算定できます。

- (問) 同日に周術期口腔機能管理計画を策定し、併せて周術期口腔機能管理を行った場合は、周術期口腔機能管理計画策定料及び周術期口腔機能管理料を同日に算定しても差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》周管は周計を算定後であれば同日でも算定できます。

- (問) 周術期口腔機能管理における管理計画書や管理報告書について、特に定められた様式はあるのか。
- (答) 特に様式は定めていないため、通知に記載されている内容が含まれていれば差し支えない。

《解説》①基礎疾患の状態・生活習慣②主病の手術等の予定③口腔内状態（現症及び手術等によって予想される変化等）④周術期の口腔機能の管理において実施する内容⑤主病の手術等に係る患者の日常的なセルフケアに関する指導方針⑥その他必要な内容⑦保険医療機関名及び当該管理の担当歯科医師名を記載して下さい。

- (問) 骨髄移植の手術は、必ずしも全身麻酔下で実施するわけではないが、その周術期の管理をした際に、周術期口腔機能管理計画策定料及び周術期口腔機能管理料は算定できるのか。
- (答) 骨髄移植の手術を実施する患者については、必要がある場合は、周術期口腔機能管理計画策定料及び周術期口腔機能管理料の対象として差し支えない。

《解説》骨髄移植を受ける患者さんは、周術期に無菌的な環境下で管理を行なう場合もあることから、全身麻酔下の手術でなくても口腔ケアの必要性があれば周計、周管を算定出来ます。

#### 周術期口腔機能管理計画策定料

- (問) 手術を実施する保険医療機関が歯科診療科を有する場合であっても、他の歯科医療機関で周術期口腔機能管理計画策定料を算定して差し支えないか。
- (答) 手術を実施する保険医療機関の歯科診療科の有無に関わらず、当該保険医療機関から周術期口腔機能管理に係る計画の策定の依頼を受ければ、周術期口腔機能管理計画策定料を算定することは差し支えない。なお、周術期口腔機能管理計画策定料は、当該手術に係る一連の治療を通じて1回に限り算定できる取扱いである。
- (問) 同一患者について、手術を行う保険医療機関と、連携する保険医療機関の双方で周術期口腔機能管理計画策定料を算定できるのか。
- (答) いずれかの保険医療機関で算定する。なお、周術期口腔機能管理計画策定料は当該手術等に係る一連の治療を通じて1回に限り算定するものである。

《解説》周術期に口腔ケアを必要とした患者さんに対し、周計は連携するいずれかの医療機関で1回だけ算定できます。尚、手術をしない医療機関が周計を算定する場合は、手術を行なう医療機関からの文章による依頼(情報提供書)が必要です。

- (問) 術前に周術期口腔機能管理計画を策定せずに、術後に当該計画を策定した場合に、周術期口腔機能管理計画策定料を算定しても差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》手術前ではなく、手術後に周計を行ない、その後に周管を算定する場合があります。

#### 【検査】

##### 歯周病部分的再評価検査

- (問) 歯周外科手術後に行う検査については、口腔内の状況に応じて歯周病部分的再評価検査又は歯周病検査のいずれかを実施して算定しても差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》歯周外科後に歯周病部分的再評価検査(1歯1回のみ)を行わず一口腔全体の精密検査を行う事も可能です。ただし検査の算定日については、歯周病の診断と治療に関する指針によると歯周外科手術の後、P部検またはP精検までは原則として2~4週以降に行うとありますのでご注意ください。

#### 【在宅医療】

##### 歯科訪問診療料

- (問) 歯科訪問診療時にやむを得ず治療を中止し、20分未満であっても歯科訪問診療料が算定できるのはどのようなケースか。
- (答) 治療中に患者の容体が急変し、医師の診察を要する場合等である。

《解説》今改定で、患者の容体が急変し、予定していた訪問診療を途中(20分未満)で切り上げなければならなくなった場合でも訪問診療料を算定出来ます。尚、その場合は摘要欄に急変後の対応を含んだ患者さんの状態、訪問日、実施時刻(開始と終了)、訪問先をご記載下さい。

- (問) 診療報酬明細書の全体の「その他」欄または「摘要」欄の記載にあたり、歯科訪問診療を実施した場合は、患者の状態を記載することになっているが、どのような内容を記載するのか。また、歯科訪問診療の都度、当該内容を記載する必要があるのか。
- (答) 診療報酬明細書の記載については、主治の医師や家族等からの情報により、歯科訪問診療を受ける患者の状態が客観的に判断できる内容（例：脳梗塞で通院困難）で差し支えないこと。なお、当該内容については、同一月内で2回目以降に歯科訪問診療を実施する場合であって、患者の状態に変化がない場合は記載を省略しても差し支えない。

《解説》訪問診療を必要とする状態例として「脳梗塞で通院困難」、「大腿骨骨折で通院困難」、「老衰にて通院困難」や「重度の認知症で通院困難」等が考えられます。患者さんの身体的又は精神的理由等を記載して下さい。又、複数回の訪問診療であっても、患者さんの状況に変化が無い場合は初回の理由のみの記載でかまいません。

#### 歯科訪問診療補助加算

- (問) 診療時間が20分未満で歯科訪問診療料が算定できず、初診料又は再診料を算定する場合は本加算は算定できないと解してよいか。
- (答) 貴見のとおり。

《解説》在宅療養支援歯科診療所に勤務している歯科衛生士が、その勤務先の歯科医師を補助し20分以上訪問診療を行なった場合、歯科訪問診療料と歯科訪問診療補助加算が算定出来ませんが、診療時間が20分未満の場合は、歯科訪問診療料を算定できず初診料又は再診料となりますので、歯科訪問診療補助加算の算定は出来ません。

### 【投薬】

#### 処方せん料（一般名処方加算）

- (問) 数種類の処方薬のうち、1種類だけでも一般名で処方されていれば他の処方薬が銘柄名で処方されていても算定できるという理解で良いか。
- (答) そのとおり。ただし、後発医薬品のある先発医薬品及び先発医薬品に準じたものについて一般名処方した場合に限り算定できる。従って、後発医薬品の存在しない漢方、後発医薬品のみ存在する薬剤等について一般名処方した場合は算定できない。

《解説》処方せんを出す場合、1種類だけでも後発医薬品のある薬剤において一般名処方を行なえば、一般名処方記載加算（2点）を加算できます。ただし、後発医薬品のない薬剤や漢方に関しては算定出来ませんので、処方する薬剤の状況をご確認ください。

- (問) カルテには、できるだけ詳しい情報を記載しておくことが望ましいとは思いますが、一般名を記載した処方せんを発行した場合に、実際に調剤された薬剤の銘柄等について保険薬局から情報提供があった際に、薬剤の銘柄等を改めてカルテに記載しなければならないのか。
- (答) 改めてカルテに記載する必要はない。発行した処方せんの内容がカルテに記載されていればよい。
- (問) 一般名を記載した処方せんを発行した場合に、カルテにはどのような記載が必要か。
- (答) 医療機関内で一般名又は一般名が把握可能な製品名のいずれかが記載されていればよい。

《解説》一般名処方を行なった場合、調剤薬局から処方する薬剤の確認があります。その薬剤が該当疾患に適応があるか必ずご確認ください。この場合、最初の処方せんの内容はカルテに記載されておりますので、指定された薬剤は改めてカルテに記載しなくてもかまいません。また、カルテには一般名でも製品名でもどちらを記載してもかまいません。

- (問) 一般名処方加算については、後発医薬品のある先発医薬品について一般名処方した場合に算定できるとあるが、後発医薬品が存在するすべての医薬品を先発医薬品として、一般名処方加算の対象としてよいか。
- (答) 一般名処方加算については、後発医薬品のある先発医薬品について一般名処方した場合に算定できるとしており、この場合の「先発医薬品」とは、昭和42年以後に新薬として承認・薬価収載されたものを基本としているところであるが、昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち、価格差のある後発医薬品があるものについては、「先発医薬品に準じたもの」とみなせることから、これらについても一般名処方加算を算定できることとする。なお、一般名処方マスタの対象範囲の拡充にあたり、保険医療機関・保険薬局では準備・対応に一般的に数ヶ月程度を要するものと承知しているが、円滑な実施のため、「先発医薬品に準じたもの」も含め、一般名処方の加算対象となる成分・規格を全て網羅した一般名処方マスタが整備されている。

《解説》昭和42年以後に新薬として承認・薬価収載された医薬品のみを「先発医薬品」と定義すると、先発医薬品の無い後発医薬品が存在してしまうという矛盾が生じてしまったため、昭和42年以前に承認・薬価収載された医薬品のうち、価格差のある後発医薬品があるものを「先発医薬品に準じたもの」と位置付け、一般名処方加算の対象としたとご理解ください。(例：カロナールを処方する場合、一般名「アセトアミノフェン」の記載により加算は可能です)

## 【処置】

### 周術期専門的口腔衛生処置

- (問) 同日に訪問歯科衛生指導と周術期専門的口腔衛生処置を算定しても差し支えないか。
- (答) 歯科治療上必要があって実施した場合は算定しても差し支えない。

《解説》歯科の無い病院へ赴き、周管1又は3を算定する場合、病院へは「歯科訪問診療」にて算定する取扱いですので、この時、歯科衛生士による訪問歯科衛生指導と術口衛を実施した場合は、それぞれ算定できません。

### 機械的歯面清掃処置

- (問) 機械的歯面清掃処置は同一初診期間中に歯科疾患管理料又は歯科疾患在宅療養管理料を算定していれば、当月に当該管理料の算定がなくても当該処置を算定しても差し支えないか。
- (答) 差し支えない。

《解説》今改定で歯清が処置へ独立したため、1回目の歯管が算定されていれば、次月以降に歯管算定がなくとも歯清単独の算定が可能になりました。

## 【歯冠修復及び欠損補綴】

### 金属歯冠修復

- (問) 咬合圧等の関係から、接着ブリッジの支台歯として、失活歯の大白歯に対して全部金属冠による金属歯冠修復を行った場合はどのように取り扱うのか。
- (答) この場合の大白歯の金属歯冠修復は全部金属冠で算定して差し支えない。

《解説》接着ブリッジは1歯のみ接着冠があれば、他方の支台歯はFMCの形成及びFMCの算定が可能です。また平行測定も可能です。



# 母校だより

## 女子野球ワールドカップ代表に直井友紀さん（第2学年）が選出!!

来る8月10日（金）～19日（日）まで、カナダ・エドモントンで開催される「第5回女子野球ワールドカップ」に本学第2学年直井友紀（なおい ゆき）さんが、選出されました。

女子野球ワールドカップは、2004年から2年ごとに開催されており、カナダ・日本・米国・オーストラリア・台湾・キューバ・ベネズエラ・オランダの8カ国が参加し、日本は今回大会史上初の3連覇に挑みます。

直井さんは、代表選手20名に、外野手部門として選出されました。日頃は、千葉キャンパスで勉学に勤しみながら、埼玉県に拠点をおく「侍」という女子硬式野球チームで練習をしています。

去る7月24日（火）には、水道橋校舎5階学長室において、井出吉信学長から激励され、カナダでの活躍を誓いました。



井出学長から激励をされる直井さん

別刷りの「平成25年度 母校受験に関する同窓会員各位へのご願い」にもあるように、母校はより良い大学として歯科界のリーダを育てることを目標に努力を続けています。その基本となる思想が以下の「アドミッション・ポリシー」と「ミッションステートメント」です。是非、ご子弟、お知り合いの方に受験をご推奨ください。

### アドミッション・ポリシー

建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、人物・学力ともに優秀で、将来、国民医療に貢献する歯科医療担当者としての能力・適性を十分に有する者を求めている。

1. 医療人としての倫理観や高い人間性を、常に向上心をもって追求しようとする意欲のある者
2. 歯科医学を学ぶための十分な資質と基礎学力を有する者
3. 口腔の健康管理を通し、国民医療に貢献しようとする意欲のある者
4. 問題解決能力や変革意欲の高い者
5. 他者との協調性を大切にできる者

### ミッションステートメント

東京歯科大学は、創立（1890年）以来、大学づくりに真摯な姿勢で取り組んでいます。それは、これから入学する人に、いま勉学に励む学生に、そして卒業した先輩たちに対して誠実でありたいからです。建学以来受け継がれる精神を信念に、あなたと一緒に成長していく大学です。

1. ライフ・サイエンスに基づいた「歯科医学」と先進技術に基づいた「歯科医療」の展開
2. 医療の心である「ケアの精神」に基づいた歯科医療の実践のための人間性教育
3. 保健医療につながる他領域との組織的連携と実践のための能力養成
4. 地域・国およびグローバルな規模での保健医療にコミットメントする人材の育成

## 平成25年度東京歯科大学入学案内 (東京歯科大学入試要項より)

### 1. 入試日程一覧 (全募集人員128名：編入学除く)

入試制度	募集人員	出願期間 (期間内必着)	試験日	合格発表日	試験会場
推薦入学選考	約45名	平成24年11月1日 ～ 平成24年11月6日	平成24年 11月10日	平成24年 11月13日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎 大阪会場： 天満研修センター 福岡会場： TKP 天神シティセンター
帰国子女・ 留学生特別選抜	若干名				
編入学試験 A	若干名				
学士等特別選抜 A	若干名				東京歯科大学水道橋校舎
一般入試 (I期)	約50名	平成24年12月17日 ～ 平成25年1月28日	平成25年 2月2日	平成25年 2月6日	東京会場： 東京歯科大学水道橋校舎 大阪会場： 天満研修センター 福岡会場： TKP 天神シティセンター
大学入試センター利用 試験 (I期)	13名				
一般入試 (II期)	約15名	平成25年2月19日 ～ 平成25年3月5日	平成25年 3月9日	平成25年 3月12日	東京歯科大学水道橋校舎
大学入試センター利用 試験 (II期)	5名				
編入学試験 B	若干名				
学士等特別選抜 B	若干名				

※編入学試験 A・B は、2年次に編入学

### 2. 出願資格

#### 推薦入学選考 (一般公募制)

次の各条件を満たし、かつ高等学校長が責任を持って推薦する者。

1. 平成24年3月高等学校卒業者または平成25年3月高等学校卒業見込の者。
2. 人物・性格ともに優れ、健康である者。
3. 入学を許可された場合、必ず本大学に入学することを確約できる者。

#### 帰国子女・留学生特別選抜

次の各項のいずれかに該当する資格を有し、入学を許可された場合、日本語での授業を理解できる者。

1. 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者または修了見込の者またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
2. スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。
3. ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。
4. フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成25年3月31日までに18歳に達する者。

#### 編入学試験 A・B、学士等特別選抜 A・B 共通

次のいずれかを満たす者とする。

- ① 4年制大学卒業生または平成25年3月卒業見込の者。
- ② 医療技術系短期大学を卒業した者または平成25年3月卒業見込の者。  
※医療技術系短期大学とは、看護・歯科衛生・歯科技工・臨床検査・診療放射線・理学療法・作業療法・臨床工学・言語聴覚等の分野を履修する短期大学
- ③ 4年制大学に2年以上在学し、所定の単位を取得した者。  
※所定の単位は、総単位数65単位以上とし、うち数学・物理学・化学・生物学に関する科目について合計16単位以上を必要単位数とする。

### 3. 試験内容

入試制度	選考内容・試験内容
推薦入学選考（一般公募制）	(1) 小論文 (2) 小テスト [外国語（英語）、数学、理科（物理・化学・生物から1科目を選択）] (3) 面接
帰国子女・留学生特別選抜	
一般入試（Ⅰ期）	(1) Ⅰ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学 ③ 理科（物理・化学・生物から1科目を選択） Ⅱ期 学力試験（出題範囲は※1参照） ① 外国語（英語） ② 数学・物理・化学・生物のうち1科目を選択 (2) 小論文 (3) 面接
一般入試（Ⅱ期）	
大学入試センター利用試験（Ⅰ期）	(1) 平成25年度大学入試センター試験の受験科目 外国語 「英語（リスニングを除く）」 数 学 「数学Ⅰ・数学A」, 「数学Ⅱ・数学B」の2科目 理 科 「物理Ⅰ」, 「化学Ⅰ」, 「生物Ⅰ」から1科目 (2) 小論文 (3) 面接
大学入試センター利用試験（Ⅱ期）	
編入学試験 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（グループ面接・個人面接）
編入学試験 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（グループ面接・個人面接）
学士等特別選抜 A	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科の基礎知識問題） (3) 面接（個人面接）
学士等特別選抜 B	(1) 小論文 (2) 小テスト（英語・数学・理科に関する基礎学力テスト） ※数学・理科については、数学、物理、化学、生物から1科目選択 (3) 面接（個人面接）

#### ※1 一般入試（Ⅰ期、Ⅱ期）学力試験出題範囲

外国語 英語：英Ⅰ、英Ⅱ、リーディング、ライティング、およびオーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱに共通な事項。ただし、実際に音声を使ったリスニングテストは行わない。

数 学 数学：数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B。なお、数Bは「数列」と「ベクトル」を出題範囲とする。

理 科 物理：物Ⅰ、物Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された物理Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)物質と原子〕の「イ 原子、電子と物質の性質」, 「(4)原子と原子核」]

化学：化Ⅰ、化Ⅱ

生物：生Ⅰ、生Ⅱ [ただし、学習指導要領に示された生物Ⅱのうち以下のものを除く。

〔(3)生物の集団〕]

#### 4. 学納金（全入試制度共通）

入学金	600,000円（入学時のみ）
授業料	3,500,000円
歯学教育充実費	4,300,000円（入学時のみ）
施設維持費	1,000,000円
合計	9,400,000円

— 受験科目詳細・入学手続きその他詳細は [入試要項] をご覧下さい —

（入試要項は、大学教務課に資料請求して下さい。web サイトからも請求可能

<http://www.tdc.ac.jp/college/applicants/index.html>）

## 四国県人会訪問



みなさんは県人会というものをご存知でしょうか。私の学生時代にも既にありました。大学の組織とは全く関係はありませんが同じ故郷を持つ仲間として自主的な組織であるとのこと。学生時代に先輩、後輩との関係いわゆる縦社会的な関係は他にクラブ活動等があります。在学中は主にクラブ活動が先輩からの情報を得る場ですが卒業して地元に戻ると同じ県人で学生時代から知っていることはとても役立ちます。

そこで同窓会としても学生時代から卒業してまでも続く絆ができる県人会の取材をすることになりました。また学生に同窓会の存在と活動等を認識してもらうためにも重要と考えました。

まず試みとして本会の大学関係の常任理事であります河田教授にお話をしたところ快くお引き受けいただき教授のご出身でもある四国県人会を取材させていただくことになりました。

6月30日（金）錦糸町のイタリア料理店にて開催されました。残念ながら6年生は出席できませんでしたが1年から5年生までで21名の学生



と河田教授、岡林大学院生が出席されました。はじめに河田教授より「四国県人という同じ故郷を持つと言うことで何故か親しみが湧きます。在学中はもちろん卒業してからもこの素晴らしい関係を保ち大事にしてください」とご挨拶がありました。

四国県人会の学生は現時点で46名、各学年人数は、6年生12名、5年生5名、4年生6名、3年生8名、2年生9名、1年生6名で、それぞれの出身県は、愛媛18名、香川10名、徳島5名、高知13名で千葉病院に残っている先生は8名と研修医が1名とのこと。先生方を含めると55名にもなるそうです。

遠いのに何故東京歯科を受験したのか尋ねてみました。「すばらしい教育が受けられること、やはり国家試験の合格率が良いことです。」と即座に返事が返ってきました。又今

年の国家試験の成績をご父兄が他歯科大学出身であるにもかかわらず学生本人以上に喜んでいただけたことでした。改めて教育関係者の努力の賜物であり東京歯科大学の同窓として誇りに思いました。同窓会報誌を見せ「全国8000人の会員へ送られ、今回の記事はここに掲載されます」と伝え「親は同窓ではないので実家に送るため一部ください」との要望もありました。もっと学生の時から同窓会の存在を認識してもらい、関わりを深めてもらう必要性を感じました。それには実際に学生さんと直に会い話をする機会を多く持つことが重要で県人会訪問は一つの足がかりになると思いました。最後にこの取材に関して河田教授、3年生の杉さんに大変お世話になりました。誠にありがとうございました。

（取材・広報部 白田 準）



# 父兄会だより

## 父兄会長就任の挨拶



新会長 小林 一 公

平成24年度父兄会定時総会にて第66代父兄会会長をお引き受けすることになりました。鳩貝前会長をはじめ、歴代諸先輩方が築き上げてこられたご功績を思うにつけ、責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。精一杯、任期を全うしたいと思いますので、一年間どうぞよろしく願いいたします。

日頃より同窓会の皆様には、父兄会事業へのご理解、ご支援を頂き、深く感謝申し上げます。同窓会役員の中には、父兄会役員をご経験された方も多く、ともに母校を支える会として、強い絆を感じております。

父兄会は大学と家庭の連絡を密にし、在学生の修学に万全を期すために必要な事柄を時代の要請に沿って行っております。東日本大震災の際には、傷害共済基金緊急災害対策準備金から被災した大学と学生の家庭に支援を行いました。また、貸与共済基金は平成24年度定時総会を経て、正式に大学奨学金制度として発足いたしました。そして、本年度は、さいかち坂新校舎も竣工し、記念すべき水道橋回帰の年となり、大きな喜びと期待とともに新学年を迎えることになりました。創立120

周年を経てなお一層の発展を続ける大学と、微力ながら父兄会も「継承と発展」の一翼を担い、共に歩んでまいりたいと思っております。

さて、第105回歯科医師国家試験では、我が東京歯科大学は国公立歯科大学の中でも合格率がトップという好成績を収めました。これは、井出学長先生をはじめとする就学指導関係者の皆様の並々ならぬご尽力の賜物であり、深く感謝いたしております。国家試験が 選抜試験となった今日、合格は在学生、父兄の念願となり、日々勉学に励む学生の姿があります。合格後は、若き同窓の歯科医師となり、研修を積み重ね、将来の歯科医学界を担うリーダーとして、大いに社会貢献をすることが出来るものと期待いたしております。その為には、是非とも同窓会の皆様方のお力添え、ご指導をいただけますようお願いいたします。

最後に、同窓会の皆様方のご健勝とさらなるご活躍、母校東京歯科大学の益々のご発展を切に祈念いたしまして、父兄会会長の挨拶とさせていただきます。今後共、父兄会をどうぞよろしくお願いいたします。

## 父兄会長退任の挨拶



前会長 鳩 貝 尚 志

このたび 任期満了により3月31日をもって父兄会会長を退任致しました。在任中は公私共に格別のご厚情を賜りました事を謹んで御礼申し上げます。

父兄会は、大学と家庭との連絡を密にし在学生の修学に万全を期する為に必要な事柄を行うことを目的とし、願いは、充実した学生生活を送り・卒業し・国家試験に合格し・就業できる事です。

「2012年」は記念の年となります。それは、歯科医師国家試験合格率全国1位と水道橋移転（新1年生がさいかち坂校舎で授業開始）です。これらは、大学支部をはじめとする同窓会の皆様の長年にわたるご尽力の賜物であり、衷心より感謝申し上げます。と同時に歯科医療界だけでなく多くの国民から注目注視される事

となりました。そして、今まで以上に同窓が協力し合い生涯研修を重ね更に高い目標を持って人々の健康の為に行動しなければなりません。

そのような中、第117回卒業生128名が同窓会に新入会しました。次の世代を担う若い同窓が「歯科医師」として「人」としてより成長し、有用な人材に育ちますよう、同窓会の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。併せて24年度の新会長に就任された小林一公会長は、心遣いが細やかで行動力がありますので、これまで以上に父兄会に対しましてもご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。会長退任のご挨拶とさせていただきます。

平成24年度 東京歯科大学父兄会役員名簿		常務理事 (奨学)	高 崎 一 郎	理 事	村 上 雅 一
会 長	小 林 一 公	常務理事 (傷害)	川 崎 輝 子	〃	瀧 上 恵美子
副 会 長	齋 藤 守	〃	坂 入 道 子	〃	藤 関 雅 嗣
〃	中 村 隆	常務理事 (広報)	橋 本 東 兎	〃	椎 貝 達 夫
〃	森 田 正 純	〃	石 井 俊 昭	〃	清 水 泰
〃	宮 吉 久 美	理 事	福 田 紳 一	〃	山 口 和 彦
常務理事 (庶務)	寺 本 信 三	〃	中 川 雅 晴	〃	阿 部 真 理
〃	飯 島 俊 一	〃	石 和 久	〃	伴 野 和 夫
常務理事 (会計)	小 山 亨	〃	松 崎 英 雄	監 事	鈴 木 千 枝 子
〃	荻 原 俊 美	〃	小 林 容 子	〃	鳩 貝 尚 志
常務理事 (奨学)	齋 藤 正	〃	原 島 晃		
			丹 沢 朝 彦		

## 支部のうごき

### 掲示板

\*この掲示板は、同窓会ホームページ <http://www.tdc-alumni.jp> にも記載されています。

日程等、決まり次第、できるだけ早めにお知らせください。

印刷、発行日の都合上、会報に載せられない場合がありますが、その場合は同窓会ホームページに掲載されますので、ご了承ください。

事業種目 日 時	演題及び講師 又は事業内容	会 場	主 催 連 絡 先	外部より 参加可否
学術講演会 平成24年 10月10日 (水) 午後7時30分～	悩ましい根管治療 ～経過不良への 対応～ (仮) 加藤広之先生 (東歯大歯科保存学講座)	渋谷区歯科医師会館 渋谷区渋谷3-6-2 第2矢木ビル	渋谷支部 連絡先 担当・高橋純一 TEL 03-3462-0577	支部会員 同窓会員
学術講演会 平成24年 10月17日 (水) 午後6時30分～	歯周療法学における再生療法 (仮) 齋藤 淳教授 (東歯大歯周病学講座)	東京都歯科医師会附属 歯科衛生士専門学校3階 千代田区多町2-11 TEL 03-3252-8221	千代田支部 連絡先 担当・山本雅通 TEL 03-3252-0624	歯科関係
学術講演会 平成24年 10月27日 (土) 午後6時～ 7時30分	歯台築造と接着 佐藤 亨教授 (東歯大クラウンブリッジ 補綴学講座)	GIA 多摩連合会会議室 立川市錦町2-1-1 タウンコート立川 TEL 042-524-3203	北多摩支部 連絡先 担当・支部長 中山友春 TEL 042-572-0249	支部会員 同窓会員 歯科関係
保険講習会 平成24年 11月10日 (土) 午後6時～	歯科診療報酬請求への対応 森岡俊介先生 (東京都開業)	ウィリング横浜ゆめおお おかオフィスタワー121・ 122号室 横浜市港南区上大岡西 1-6-1	横浜南部支部 連絡先 担当・渡邊宇一 TEL 045-842-0233	同窓会員 歯科関係
学術講演会 平成24年 11月23日 (金・祝)	開業医が持ち合わせておくべき口腔 癌の知識とその診査方法 (仮) 片倉 朗教授 (東歯大オーラルメディスン 口腔外科学講座)	ウイステイン都ホテル 京都市東区三条蹴上	近畿地域支部連合会 連絡先 担当・河野多聞 TEL 075-982-3200	連合会会員

## 四国地域支部連合会

### 平成24年度総会学術講演会

四国地区は、学生の頃から四国人会という集まりがあり先輩、後輩の絆が強く、地元に戻ってもその関係で、非常に和気あいあいとした地域支部連合同窓会が毎年持たれています。

平成24年5月12日午後3時より、四国地域支部連合同窓会総会、並びに学術講演会を、徳島グランドホテルで行いました。四国地域は約120名の同窓がありますが、今回その半分近い50数名の方が出席をされました。途中高速道路で多重事故があり、愛媛県の同窓が乗った車3台が巻き込まれました。幸い、会員に怪我はありませんでしたが、幹事の濱松孝典先生、神原常道先生は、出席者のキャンセル、大幅遅刻者の対応に大変でした。

総会に先立ち、高橋義一専務を中心に久保田 晃四国地域支部連合会会長、藤本 清香川県支部長、横山

洋行愛媛県支部長、西川文雄高知県支部長、宮井義博徳島県支部長とで、評議員会の議員選出のあり方、水道橋移転事業に関する寄付金に関して等の話し合いが持たれました。

総会は、益井孝文先生の司会で始まり、井上三四郎先生の歓迎の言葉、矢崎秀昭会長の新任のご挨拶と同窓会の現状の報告があり、続いて井出学長よりは、スライドを使いさいかち坂校舎の紹介、水道橋新校舎の完成予想図などを見せていただきました。今回の大学からの報告のメインは勿論国家試験の合格率完全トップの話でした。

総会の後、法歯学の水口 清教授より「法医学教室の社会活動の話題から」と題して講演がありました。東北大地震でのご活躍に関しては、同窓としてその活動に敬意を表したいと思います。講演はいわゆる犯罪捜査に関してが中心でしたが、まるで推理小説を読んでいるような気持



になる内容で素晴らしいものでした。

懇親会は、大守真由子先生の司会で始まり、地元徳島県歯の和田会長を迎えて行いました。矢崎会長と和田会長は、昨年まで日本歯科医師会の監事を一緒にされていた仲であり、また女性会員の出席が多いせいか非常に和やかな雰囲気で行われました。(宮井義博 記)



## 秋 田 県 支 部

### 平成23年度定時総会 並びに学術研修会開催

平成24年5月19日(土)午後2時より秋田キャッスルホテル天平の間に於いて秋田県支部会員数49名中29名の出席により平成23年度定時総会が開催された。同窓会本部より梅村長生副会長、高橋文明東北地域選出理事、そして本大学より臨床検査病理学講座 井上 孝主任教授を来賓として御迎接を賜った。

定時総会は寺岡洋一副支部長の開会の辞で始まり余寒2月1日(水)にご逝去された小林昭雄先生(昭和29年卒業/二期会・支部高齢会員享年83歳)への黙祷を捧げた。続いて昨年6月より新支部長並びに昨年4月より社団法人秋田県歯科医師会会長に就任された藤原元幸支部長が挨拶に登壇された。次に同窓会本部役員ご挨拶として梅村長生副会長が現在の同窓会体制における総括説明と本学水道橋校舎への移転計画の詳細

なる現状報告を行った。そして高橋文明東北地域選出理事からは今後の同窓会本部改革案とその要旨並びに東北地域支部連合会改革案が各々解説された。また本大学内近況報告として、井上 孝教授からは今年の本学初めて全国の国公立・私立中第1位の国家試験合格率達成の駿驥報告を拝聴した。さらに水道橋近隣地区への順調な移転が進められ、更なる高度医療と教育・研究の環境整備が成される事を詳細報告した。

会務一般並びに監査報告と全認定議案も満場一致で可決承認された。定時総会終了後、井上 孝教授による「口腔病変と五臓六腑、歯科医から口腔医へ」の演題で学術研修会が行われ、臨床に直結した基礎的知識と最新の治療概要、並びに今年出題された国家試験超難問題に対する基準的解釈と詳細な解説を拝聴した。

記念写真撮影後、高橋昭一前支部長の祝杯献上により同窓会懇親会が

開宴し、終始懇談の華艶が舞った。  
(五味明雄 記)

#### 秋田県支部役員名簿

支 部 長	藤原 元幸(八輪会)
副支部長	寺岡 洋一(七十九期会)
	岡田 寛(八輪会)
	嶋田 均一(正和会)
	高橋 文明(八十二期会)
	佐藤 裕子(八実会)
	山田耕一郎(弥生会)
理事(総務)	鈴木 文登(水公会)
(庶務)	五味 明雄(新葉会)
(学術)	五味 明雄(ク)
(会計)	駒橋 純(爽翔会)
(無任)	武田 勤(弥生会)
	清水 隆夫(爽翔会)
	金子 恵三(爽翔会)
	工藤 卓奥(爽翔会)
	山本 高敬(百樹会)
監 事	有明 一(志学会)
	奈良 周彦(水公会)
顧 問	駒橋 典夫(いそむ会)
	太田 晃(五期会)
	山内 静(六喜会)
	高橋 昭一(歯士会)





## 福島県支部

### 総会および学術講演会開催

平成24年度東京歯科大学同窓会福島県支部総会および学術講演会が、去る6月23日(土)午後1時より福島ビューホテルにて開催された。昨年は、東日本大震災と原発事故の影響のために総会が開催できなかったので、久々の会員の参集で終始、和気あいあいの雰囲気であった。

総会は、佐藤 滋専務理事の司会で、午後1時に始まり、宍戸計一副支部長の開会の言葉。物故会員への弔慰・黙祷。佐藤正矢支部長の挨拶。来賓として、矢崎秀昭本部同窓会長より、会務状況の説明と震災に対するお見舞いの言葉があった。さらに、井出吉信学長より、大学移転と血脇記念ホールの建設の進行状況等の説明があり、菅谷 敏先生を議

長に選任して、議事に入った。役員改選が行われ、佐藤正矢支部長の再任が、満場一致で決承認され、新役員が決まった。

学術研修会は、東京医科歯科大学大学院口腔病理学教授の山口 朗先生(昭和49年卒)を講師にお迎えして、「オステオネットワークの維持と破綻・骨病変の理解と新たな治療法の開発を目指して」という演題で、ご講演いただいた。

学術講演の後、記念撮影を行い、懇親会が開催された。佐藤祐司先生の乾杯のご発声で、祝宴となった。震災や原発事故による不安やイライラから、しばし解放されるひとときであった。ビンゴゲームで幸運を引き当てた後、野内 学先生の指揮のもと、円陣を組み校歌斉唱を行い散



講師の山口 朗先生

会とした。

翌24日(日)、安達太良カントリークラブにおいて矢崎同窓会長を交えて、ゴルフ大会を開催した。高原のさわやかな風の中、楽しいひとときを過ごした。伊達市の西川祐介先生が、余裕の優勝であった。

(菅谷晃大 記)



## 埼玉県支部

### 平成24年度総会

平成24年7月1日(日)、埼玉グランドホテル本庄において24年度埼玉県支部学術講演、総会、懇親会が開催されました。

学術講演は東京歯科大学歯周病学講座主任教授 斎藤 淳先生に『歯周病原菌バイオフィルムのコントロールと歯周組織再生療法』というテーマで講演していただきました。仙台での開業医経験も交えたお話は我々開業医にとってわかりやすく、なおかつ臨床に直結する内容で大変好評でした。

総会に移り、まずは物故会員に黙祷を捧げました。来賓の同窓会副会長加藤木 健先生には最近の同窓会の動向を、今回はご臨席叶わなかった井出学長の代行として田崎雅和教授からは大学の水道橋移転、入試、国家試験の状況についてご説明いただきました。国家試験合格率の全国一位、最近の入試偏差値の高さに会員からは感嘆の声が上がっております。また、埼玉県歯科医師会副会長の小杉国武先生にもご挨拶をいただきました。続いて野上宏一議長、



春山支部長と新入会員



藤波 齊副議長の下、議事は滞りなく進行し三議案すべてが賛成多数で承認され、総会を無事終了いたしました。

懇親会は会場を移して行われました。井原信一先生の乾杯ご発声にてのどを潤した後、大量8名もの新入会員が紹介されました。矢崎同窓会長の提唱する『会員との連携強化』が春山良夫支部長のもとで実を結んだ形となりました。続いて、野上宏一先生文部科学大臣表彰(学校保



斎藤 淳先生



健功劳)のお祝いと退任者表彰が行われました。また、お忙しいなか駆けつけていただいた埼玉県歯科医師会会長島田 篤先生にご挨拶をいただきました。

美味しいお酒とすばらしい料理を満喫し年代の垣根を越えた会員相互の交流を楽しみましたが、そろそろ時間となり、大井誠一幹事長指揮によって校歌を斉唱しお開きとなりました。(山崎眞司 記)



## 愛知県支部

### 平成24年学術講演会

7月8日(日)午後2時より、アパホテル名古屋錦にて愛知県同窓会学術講演会を開催しました。梅雨の合間の蒸し暑い日にもかかわらず、40名の先生に出席していただきました。講師には、日本に7人しかいない米国口腔顔面痛学会認定医の井川雅子先生をお招きし、「口腔顔面痛：原因不明の歯（顔）の痛みへの診断と対処法～その痛み、本当に歯が原因ですか～」と題してご講演いただきました。著書・論文等数多く発表され、全国各地で講演されており、歯痛・顔面痛診断のエキスパートということで、解剖学・神経学等難解と思われるところをわかりやすくかつ興味深く説明していただき、群発頭痛、三叉神経痛、舌咽神経

痛、非定型歯痛等の各症例はそれぞれ大変インパクトのある症例で、中身の濃い有意義のためになる講演でした。それにしても、率直な感想を言わせてもらえば、今更当たり前のことですが安易な抜髄、抜歯をしてはならないということです。ただ、保険診療中心の開業医としては、ある患者さんの痛みの訴えに対し「これはひょっとしたら歯が原因ではない。場合によっては三環系抗うつ薬による薬物療法が望ましいのではないか。」と診断したとしても、そのあとカルテの記載を含め、患者さんを紹介するための医療連携の仕方など大変戸惑います。このような症例は誰しも遭遇する可能性があり、こういう患者さんは今後増えるであろうとも予測されるので学会、歯科医

師会等が協力し、より良いシステムを構築し、医療機関にとっても患者さんにとってもわかりやすいスムーズな医療連携ができることを強く望みます。

講演終了後は会場を移し、講師を囲んで懇親会を開きました。そこでは本日の演題とは異なりますが、井川先生は日本顎関節学会の認定医および評議員であられ、わずかな時間でしたが顎関節症の話も伺い、目からうろことはこのことだと感じました。是非次はTMDを題材として講演をしていただきたく思います。下の写真は講演後の懇親会会場での集合写真です。(竹内英樹 記)



# クラス会だより

## 十二期会

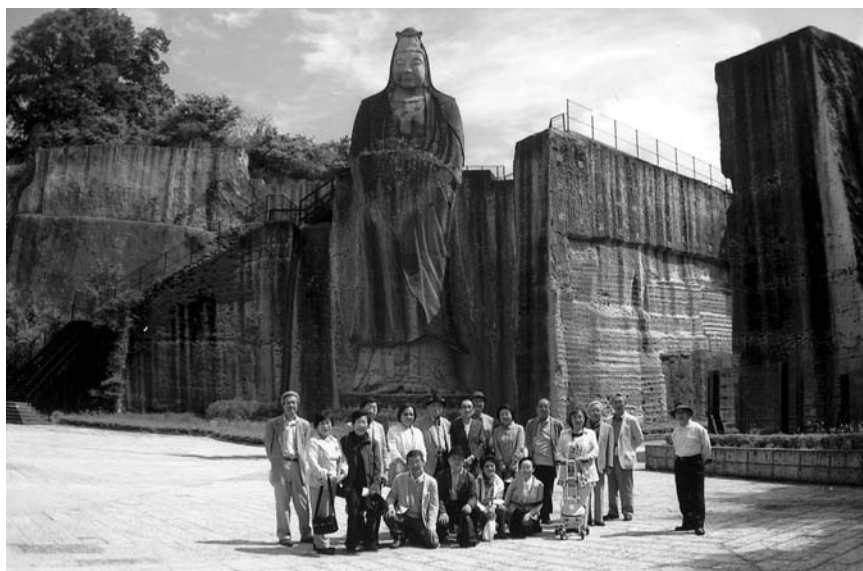
昭和39年卒

第47回十二期会栃木大会を、平成24年5月25日から27日の3日間、宇都宮市ホテルニューイタヤで開催した。

5月25日、前夜夕食会には30名が集い、食卓を囲み互いの息災を確かめ、思い出話に花を咲かせた。

翌26日、ゴルフ組と観光組に分かれ、ゴルフ組は宇都宮郊外塩谷町ロペ倶楽部へ、観光組は大谷観音から世界文化遺産2社1寺の日光へ。まず田母沢御用邸記念公園を見学、そして大谷川に架かる朱塗りの神橋を見下ろす大正ロマン溢れる金谷ホテルで昼食、午後は輪王寺と東照宮を参拝、日光高速道路の新緑のトンネルを戻り、ホテルに。夕刻には、残る10名が到着。

午後6時30分、丹野 研会長のもと総会を開会。同窓会並びに大学関係を片倉恵男前同窓会副会長から現況が報告され、続いて慶事の報告があり、鈴木 尚(福島県)、秋山博右(栃木県)両君が、永年、歯科医師会の役員としての功労が認められ、平



成24年春の叙勲で旭日双光章受章の栄に浴されたので、本会よりも祝意を表し、共に喜びを分かち合った。翌27日、陶芸の里、益子への半日観光には20名が参加、60余の藍甕が土間に並ぶ、江戸時代から継く「日下田藍染工房」、そして益子最大の窯元「つかもと」でのロクロ体験と絵付けを楽しみ、午後2時すぎJR宇都宮駅より、それぞれに帰途についた。

今回の栃木大会は、昨年3月11日の東日本大震災で開催が不能となり、やむを得ず延期となり、2年越しの大会となったにも拘らず、遠路九州より鈴木勝志・梓夫妻、吉澤健介夫妻、北海道より前田高直、向山英彦両君をはじめ40名の参加に感謝し、次回は水道橋さいかち坂での開催の予定である。

(牟田紀一 記)



# 飛 翔 会

昭和46年卒

卒後41年になる私たち飛翔会は以前より2年ごとに総会を開催してまいりましたが、5年前より毎年開催しようと衆議一決し、地方と交互に開催してまいりました。

昨年は四国の田中君のご尽力で、なかなか行けない四万十市で開催され、清流四万十川の川下りを楽しむことができました。

今年は関東ということで、神奈川県で開催の運びとなり、横浜の山下公園前のメルパルク横浜にて、ご夫婦7組を含め43名の参加の下に、今回は卒業アルバムの写真からスキャンした若かれし頃の写真のカードを首から掛け、お互い歳とったの、白くなったの、禿げたのと言いたい放題ではじまりました。

昨年亡くなった加藤久夫君、今年なくなった勝俣體明君の冥福を祈っ

て黙祷後、加藤木君の乾杯、柳澤君の大学の話、佐瀬君の本部同窓会の話、軽く歓談、集合写真と続き、今回は松島君のJPバンドに始まり、熊谷君、熊本君のギターと歌とコラボし、懐かしいフォークソングのリズムと歌に酔いしれ、最後は飛翔会ということで、「翼をください」を全員で大合唱となりました。

その後あちこちのテーブルを行ったり来たりし、大盛り上がり、宴会終盤には早々と集合写真が出来上がり、2次会になだれ込みました。

2次会はホテル真横にあるマリンタワーの一階のmizumachi-barを貸し切り、またまた大盛り上がり、参加者が多く、座る椅子が足りなくなるほどでした。その後、加藤木君の案内で3次会まで行われました。

翌日は朝からの雨が上がり、18名



の参加でマリンシャトルにて横浜港一周をおこないました。ロイヤルルームを18名で貸し切ったようになり、お酒も入って、あれは川崎だ、いやいや鶴見だと大盛り上がりの一時間ほどの小宴会、下船後来年の再会を楽しみに散会となりました。

今回は名古屋の山田 有君、岐阜の中島良成君が幹事を引き受けてくれることになりました。

(岩本正晃 記)



クラス会開催日程

八 紫 会 (昭和35年卒)	と き	平成24年10月 6日(土)・7日(日)
	と ころ	草津温泉・旅館“望雲”
富 巳 会 (昭和40年卒)	と き	平成24年11月 3日(土・祝) 18:30～
	と ころ	東武ホテル レパント東京 (6Fクロワドル)
踏 志 会 (昭和41年卒)	と き	平成24年10月20日(土)・21日(日)
	と ころ	志摩観光ホテル・クラシック
八 輪 会 (昭和50年卒)	と き	平成24年10月20日(土) 18:00～
	と ころ	山口市湯田温泉・松田屋ホテル
八 十 二 期 会 (昭和52年卒)	と き	平成24年11月 3日(土・祝) 18:00～
	と ころ	東京 ザ・プリンスパークタワー東京 33階
黎 明 会 (昭和57年卒)	と き	平成24年11月 3日(土・祝) 15:00～
	と ころ	東京 ホテルグランドパレス



## 戦後、引揚時に税関等に預けられた通貨・証券類の返還について

本年、横浜税関より、上記内容について会員の中に該当者がおり、同窓会事務局に調査依頼がありました。調査の結果、ご本人は既にご逝去されておりましたが、ご家族にその旨お知らせすることが出来ました。税関では他にも同様な事例が考えられることから、さらなる協力の要請がきております。税関からのお知らせを掲載します。

税関では、終戦後に外地から引き揚げてこられた方々が、帰国前に現地の在外公館や日本人自治会等に預けられたり、上陸時に税関、海運局に預けられた通貨・証券類をお返ししております。

預けられたご本人はもとより、ご家族の方でもお心当たりのある方は、お気軽にお問い合わせください。

〒231-8401 横浜市中区新港1-6-2  
横浜第一港湾合同庁舎  
横浜税関 業務部 税関相談官室  
電話 045-212-6000

# 理事会のうごき

## 第3回理事会

平成24年6月9日（土）午後4時00分  
於 宮城県 ホテル松島大観荘 会議室  
出席 31名  
議長 矢崎会長

### 会長挨拶

高垣先生のご逝去に伴い、阿部晴弘先生が理事に就任された。執行部が立ち上がって6ヵ月となるが、各理事の協力により充実した会務が運営されている。本日は移動理事会であるが、今後の同窓会のあり方、大学との関わり等について、夜を徹して協議して頂きたい。母校も国家試験で好成绩を収め、新しい校舎での講義も軌道に乗ってきている。ただ全国の大学を見渡すと、生き残りをかけて厳しい状況が続いている。同窓会として、何とか母校を支援して行きたいと考える。120周年記念募金が伸び悩んでいるが、さらなる対策を講じて頂きたい。若手支援については、事業推進部が中心になって進めているが来年度に向けて形にしていきたい。理事会後の懇親会には、宮城県支部の先生方がお見えになるので、今後の支援のあり方についても考えて頂きたい。遠路の参加を感謝する。

### 黙 禱

滝野川支部・海老原きみ子氏他10名のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表した。「黙禱」

### 会務報告ならびに承認

- 1) 平成24年5月17日から平成24年12月17日までの日程を報告。
- 2) 各部報告
  - (1) 総務・厚生部：①役員の新補充について報告、承認。②支部長交代について1件報告、承認。③支部長退任時の感謝状ならびに記念品の贈呈について1件報告、承認。④6月1日現在の支部長名簿を配付、報告。⑤地域支部連合会会長交代について1件報告、承認。⑥6月4日現在の地域支部連合会会長名簿を配付、報告。⑦逝去会員について、規定により弔慰共済金を支給した旨の報告、承認。⑧厚生委員会報告。⑨会費、共済負担金納入免除願いについて5件報告、承認。⑩ゴルフ大会委員会報告。⑪母校創立120周年記念事業募金状況報告。⑫情報ネット

ワーク推進会議報告。⑬会務検討特別委員会について、会員名簿を配付し、委員会に諮問を行った旨の報告。⑭同窓会・会務運営協議会報告。⑮東日本大震災対策部会報告。⑯在学生名簿提供願いについて報告、承認。

- (2) 会計部：①支部・地域支部連合会学術講演会講師派遣交通費の支出について4件報告、承認。②地域支部連合会学術講演会助成金の支出について1件報告、承認。
- (3) 渉外部：渉外委員会報告。
- (4) 広報部：広報委員会報告。
- (5) 事業推進部：①事業推進部全体委員会・企画会議報告。②学術委員会報告。③TDC 卒後研修セミナー2012、インプラントセミナー・マスターコースについて説明。④保険委員会報告。⑤大学連携委員会報告。⑥シンクタンク委員会報告。⑦若手ネットワーク委員会報告。委員会から事業に対する提案書が提出され、協議題として協議することとする。

### 各地域選出理事報告

- 1) 佐藤理事（北海道）  
第1回検討委員会を開催。会務について検討を加えている。
- 2) 高橋理事（東北）  
来週、東北地域支部連合会総会開催予定。
- 3) 杉山理事（関東）  
7月8日、支部長会開催予定。9月2日関東地域支部連合会総会開催予定。
- 4) 阿部理事（信越）  
6月30日、信越地域支部連合会総会開催予定。
- 5) 太田理事（東海）  
9月2日、東海地域支部連合会総会開催予定。
- 6) 加藤理事（北陸）  
支部長会開催の報告。
- 7) 永田理事（近畿）  
6月16日支部長会開催予定。
- 8) 小徳理事（中国）  
支部長会開催の報告。会員未入会の問題は中国地方に限っては生じていない。募金については動きが鈍いのが現状。
- 9) 久保田理事（四国）  
四国地域支部連合会総会開催の報告。総会開催時に交通事故が発生した。

10) 田部理事（九州）

支部長会開催の報告。メールを支部長の他に複数、送信してもらえないか要望。

協議事項

- (1) 平成23年度東京歯科大学同窓会決算書について承認。
- (2) 若手会員との連携推進について協議の結果、承認。
- (3) 同窓会組織改革の経過措置のあり方、評議員のあり

方について、4地域支部連合会の意見を示し、さらなる協議を続け、評議員会においても協議題として意見を伺う事とし、継続審議とする。

- (4) 平成25年度事業について、各部より提出された25年度事業計画案を示し、さらに修正を加えて第4回理事会で最終決定できるよう継続審議とする。
- (5) 事務長の配属について承認。
- (6) ゴルフ大会の実行委員の任命について、協議の結果、承認。

## 庶務日誌

7月

1) 理事会

7月18日(水) 第4回常任理事会

31日(火) 事業推進部学術委員会（運営委員会）

31日(火) 事業推進部学術委員会（プログラム委員会）

2) 委員会

- 7月2日(月) 事業推進部大学連携委員会
- 3日(火) 会務検討特別委員会
- 4日(水) 事業推進部学術委員会（運営委員会）
- 6日(金) 事業推進部学術委員会（運営委員会）
- 9日(月) 総務・厚生部厚生委員会
- 9日(月) 事業推進部学術委員会（プログラム委員会）
- 10日(火) 渉外部渉外委員会
- 11日(水) 広報部広報委員会
- 11日(水) 事業推進部学術委員会（研修委員会）
- 12日(木) 事業推進部・若手同窓支援セミナー（運営会議）
- 13日(金) 事業推進部学術委員会（運営委員会）
- 17日(火) 事業推進部（企画会議）
- 18日(水) 事業推進部学術委員会（研究部）
- 19日(木) 学術事業交流についての協議会
- 20日(金) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 23日(月) 同窓会・会務運営協議会
- 23日(月) 事業推進部学術委員会（企画）
- 24日(火) 会務検討特別委員会
- 24日(火) 事業推進部学術委員会（運営委員会）

3) 出張

- 7月1日(日) 埼玉県支部総会 加藤木副会長出席  
学術講演会 講師・斎藤 淳教授(母校)
- 6日(金) 水道橋病院3階口腔インプラント科・4階口腔外科診療室オープニングセレモニー 矢崎会長出席
- 7日(土) 群馬県支部総会 矢崎会長出席  
学術講演会 講師・矢崎秀昭先生（東京都開業）
- 8日(日) 愛知県支部学術講演会 講師・井川雅子先生（静岡市立清水病院口腔外科）
- 9日(月) Elective study Program 表彰式 矢崎会長出席
- 11日(水) 東京地域支部連合会東歯保険関係懇談会 矢崎会長出席
- 12日(木) 本郷・小石川支部合同学術講演会 講師・井上 孝教授（母校）
- 19日(木) 歯科医師国民年金基金創立20周年記念の会 矢崎会長出席
- 23日(月) 練馬支部学術講演会 講師・佐藤 享教授（母校）
- 25日(水) 東京地域支部連合会学術講演会 講師・



斎藤 淳教授 (母校)

- 3日(金) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
- 5日(日) 事業推進部学術委員会 (全体委員会)
- 6日(月) 事業推進部学術委員会 (研究委員会 B)
- 6日(月) 事業推進部シンクタンク委員会
- 17日(金) 事業推進部学術委員会 (プログラム委員会)
- 20日(月) 広報部広報委員会
- 20日(月) 会務検討特別委員会
- 21日(火) 同窓会・会務運営協議会
- 21日(火) 事業推進部若手ネットワーク委員会
- 22日(水) 事業推進部 (企画会議)
- 23日(木) 事業推進部学術委員会 (研究部)
- 24日(金) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
- 29日(水) 総務・厚生部厚生委員会
- 30日(木) 事業推進部保険委員会
- 30日(木) 事業推進部若手同窓支援セミナー (運営委員会)

4) 事業

- 7月1日(日) 学年代表者会
- 14日(土) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 15日(日) TDC インプラントセミナー・マスターコース
- 21日(土) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー No.3 イブニングセミナー2 (「最新 重度歯周炎患者へのアプローチ」～プロビングだけでは分らない歯周炎病態の把握～)
- 22日(日) TDC 卒後研修セミナー 卒研セミナー No.4 臨床実習セミナー1 (「細菌・抗体検査の実際と歯周外科実習」～重度歯周炎患者へのアプローチ 実践偏～)

8月

1) 理事会

- 8月25日(土) 第4回理事会

2) 委員会

- 8月1日(水) 事業推進部学術委員会 (運営委員会)
- 2日(木) 総務・厚生部ゴルフ大会実行委員会

3) 出張

- 8月18日(土) 北海道地域支部連合会総会  
矢崎会長, 梅村副会長, 高橋専務理事,  
佐藤理事出席
- 18日(土) 宮崎県支部学術講演会 講師・末石研二  
教授 (母校)

訂正とお詫び

会報「386号」に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

P53 庶務日誌 6月

3) 出張

16日(土) 近畿地域支部連合会支部長会

誤：白田常任理事出席

正：白井常任理事出席

## 逝去会員

下記の会員が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し心からご冥福をお祈り申し上げます。

(敬称略・届出順)

●昭 30 卒	小 川 晴 昭 (82歳)	24. 5. 28
北多摩支部	〒185-0012 国分寺市本町2-14-7	
●推 薦	馬 渕 清 志 (89歳)	24. 5. 23
小樽支部	〒047-0024 小樽市花園3-25-17	
●昭 24 卒	太 田 実 (85歳)	24. 6. 1
群馬県支部	〒379-1311 利根郡みなかみ町石倉280-5-905号	
●昭 63 卒	田 口 亮 (48歳)	24. 6. 3
北多摩支部	〒183-0034 府中市住吉町1-84-1-805	
●昭 22 卒	石 田 重 雄 (88歳)	24. 6. 2
新潟県支部	〒951-8062 新潟市中央区西堀前通5-760-1	
●院 昭57卒	市 川 重 則 (60歳)	24. 6. 3
横浜中央支部	〒221-0865 横浜市神奈川区片倉1-5-8-306	
●昭 25 卒	芳 村 正 雄 (93歳)	24. 5. 24
渋谷支部	〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-5-6 鳩森診療所	
●昭 16 卒	雨 宮 彦 一 (94歳)	24. 6. 10
山梨県支部	〒400-0032 甲府市中央1-1-17	
●昭 34 卒	大久保 雅 順 (77歳)	24. 6. 15
栃木県支部	〒320-0848 宇都宮市幸町5-13	
●昭 46 卒	勝 俣 體 明 (74歳)	24. 6. 15
山梨県支部	〒403-0004 富士吉田市下吉田389	
●昭 27 卒	伊 藤 敬 一 (81歳)	24. 6. 15
兵庫県支部	〒657-0823 神戸市灘区天城通7-2-1 伊藤ビル4F	
●昭 31 卒	黒 沢 吉 雄 (83歳)	24. 6. 16
町田支部	〒194-0001 町田市つくし野4-16-3	
●昭 17.9 卒	山 崎 薫 (90歳)	24. 1. 7
愛知県支部	〒444-0423 西尾市一色町一色下乾地9-2	
●昭 43 卒	貝 田 昌 雄 (71歳)	23. 6. 24
下谷支部		
●昭 22 卒	伊 藤 孝 (86歳)	24. 6. 30
世田谷支部	〒154-0012 世田谷区駒沢3-2-1 伊藤ビル2F 駒沢歯科医院	
●昭 33 卒	野 内 光 雄 (78歳)	24. 7. 5
福島県支部	〒969-1149 本宮市本宮字万世132-1	
●昭 12 卒	押 見 宏 (96歳)	24. 7. 7
中野支部	〒178-0065 練馬区西大泉5-31-8 グランダ西大泉練馬	
●昭 43 卒	芝 原 邦 彦 (68歳)	24. 6. 23
島根県支部	〒690-0884 松江市南田町172-3	
●推 薦	早 川 武 則 (100歳)	24. 7. 11
山梨県支部	〒400-0601 南巨摩郡富士川町鰍沢706	
●昭 24 卒	小 山 実 (85歳)	24. 7. 15
北多摩支部	〒208-0004 武蔵村山市本町2-16-2	

## ◆投稿規定

- (1) 原稿締切り  
原稿の締切りは、奇数月の10日までとし、原則として翌月発行の会報に掲載いたします。
- (2) 投稿様式  
投稿は原稿用紙に横書きとし、便箋などの使用はご遠慮ください。ワープロ使用の場合は1行16字で設定して下さい。写真はピントのあったものを、大きいサイズ(2Lなど)で、集合写真のみでなく、スナップなども添えて下さい。
- (3) 投稿字数
  - ① 「すいどうばし」欄(随想, 詩, 短歌, 時評など)は、1編1,600字程度
  - ② 「支部のうごき」「クラス会だより」は、本文のみの場合1,600字程度。写真が入る場合、3段抜き900字、2段抜き400字、1段抜き200字減らして下さい。
- ③ 「追悼」は、500字程度
- (4) ご投稿いただいた原稿は原則として原文のまま掲載いたします。ただし、紙面の都合により加筆削除等お願いすることがありますので、ご了承下さい。  
なお、掲載については委員会にご一任いただきます。
- (5) 写真等の返却  
写真等は、原則として返却いたしません。特に貴重な写真などの場合は、その旨書き添えて下されば返送いたします。  
写真は同窓会ホームページにも掲載されることがあります。

電子メールでの投稿は同窓会ホームページ<http://www.tdc-alumni.jp/membersonly/kouhoubu.php> をご覧下さい。

## ◆へんしゅうこうき

- ★ この原稿を書いている時点で、ロンドンオリンピックが開幕直前。今年はいまひとつ盛り上がり欠けるかなと思っていたのですが、期待の選手が大勢出場することもあって、ここに来て俄然盛り上がってきました。思えば幼稚園の頃、帰宅すると小さな白黒テレビで東京オリンピックの入場行進をやっていました。これは鮮明に覚えています。それ以来、特にスポーツ観戦が好きなわけではないのですが、オリンピックとなると何故かテレビに目が釘付けになることが多くなりました。
- ★ 東京、メキシコ、ミュンヘン、モントリオール、モスクワ、ロサンゼルス…と、子供の頃ワクワクして観ていた夏のオリンピック開催地はスラスラと自然に出てきます。しかし、最近の開催地となると…待てよ…これは歳のせいかな?それとも忙しさから、オリンピック自体にワクワクする気持ちが薄れたせいかな?
- ★ 国際情勢が不安定な中、こうした祭典が定期的に開催されることはとても喜ばしいことですが、良い思い出ばかりではありません。ミュンヘンでのテロやモスクワでのボイコット…。このようなことが2度と起らないことを願ってやみません。
- ★ ところで今号でもお知らせしておりますが、この記念すべき年に水道橋病院がいよいよリニューアルオープン致しました。3階の高度歯科医療センター・口腔インプラント科と、4階の口腔外科が装いも新たに今夏オープンしました。色調は2階の総合診療室と同系統の茶色を主体としたシックなものです。近隣の先生方のみならず、同窓の先生方から沢山の患者さんを御紹介いただければ幸いです。
- ★ この夏も昨年同様、節電を心がけなくてはなりません。しかしこの夏はオリンピックがあるので、さらに暑い夏になりそうです。どうか皆さんも知恵と工夫で猛暑を乗り切っていただきたいと思います。  
(古澤成博 記)

## 広報部広報委員会

委員長 白田 準  
副委員長 福井 雅之  
山口 雅史  
古澤 成博  
委員 佐々木 葉子  
志村 圭子  
渡邊 宇一  
島田 篤  
西村 哲雄  
宇佐美 貴弘  
小貫 飛鳥  
横田 東生

広報部担当理事 小池 修

平成24年8月20日 印刷	発行人 小 池 修
平成24年8月25日 発行	編集人 白 田 準
東京歯科大学同窓会会報 第387号	東京歯科大学同窓会
同窓会ホームページアドレス	〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-9-18
<a href="http://www.tdc-alumni.jp">http://www.tdc-alumni.jp</a>	電話 (03) 5275-1761
	FAX (03) 3264-4859
	印刷所 一世印刷株式会社
	〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22
	電話 (03) 3952-5651 (代)